

### 2-2-3. 重点対策種、重点予防種、産業管理外来種の対策方針の検討

(1) 外来種リストで示した優先的に対策を実施する重点対策種、重点予防種、産業管理外来種生態等への影響が高いと考えられる沖縄県の外来種リストのうち、対策の優先度の高い種類として選定した重点対策外来種、重点予防種、産業管理外来種について、それぞれの対策の方針を検討した。

表 2-2-3.1 沖縄県外来種対策指針で定めた外来種リストの区分

<b>【定着】</b>	
防除対策外来種：沖縄県内に定着しており生態系への影響が懸念される外来種	
<u>重点対策種：沖縄県内に定着しており、生態系への影響が大きいことから重点的に駆除等を実施する必要がある外来種</u>	
対 策 種	：沖縄県内に定着しており、生態系への影響が一定程度あると考えられる外来種
<b>【未定着】</b>	
定着予防外来種：沖縄県内には未定着であるが、生態系への影響が懸念される外来種	
<u>重点予防種：沖縄県内には未定着であるが、侵入した際の生態系への影響が大きい外来種</u>	
予 防 種	：沖縄県内には未定着であるが、生態系への影響が一定程度あると考えられる外来種
<b>【産業管理】</b>	
<u>産業管理外来種：産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系への影響がより小さい代替性を有するものがないため、利用において移出等の防止のための適切な管理が必要な外来種</u>	

表 2-2-3.2 外来種リストで対策の優先度の高いとした種類

区分	対象の種類
重点対策種 (14種)	フィリマングース、ノイヌ、ノネコ、ニホンイタチ、ニホンイノシシ、 インドクジャク、コウライキジ、 グリーンアノール、タイワンスジオ、台湾ハブ、 オオヒキガエル、 サイカブト、 ツルヒヨドリ、アメリカハマグルマ
重点予防種 (6種)	アライグマ、カミツキガメ、 ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ、 セアカゴケグモ
産業管理外来種 (3種)	セイヨウオオマルハナバチ、クロマルハナバチ、セイヨウミツバチ

(2) 対策の方針の検討状況

対策の方針等の作成にあたっては、事務局で対策の方針のたたき台を作成した後、作業部会や専門家へのヒアリングを実施し、対策の方針（案）の作成を進めている。

表 2-2-3.3 対策の方針の作成にあたってのヒアリング先（予定も含む）

区分	種類	作業部会等	関係機関等
重点対策種	フイリマングース	マングース委員会	環境省
	ノイヌ	新規イヌネコ作業部会	環境省、市町村
	ノネコ	新規イヌネコ作業部会	環境省、市町村
	ニホンイタチ	作業部会	環境省、市町村
	ニホンイノシシ	イノシシ委員会	環境省、市町村
	インドクジャク	1/31 作業部会	環境省
	コウライキジ	専門家	市町村
	グリーンアノール	作業部会	環境省、市町村
	タイワンスジオ	作業部会	環境省、市町村
	タイワンハブ	作業部会	県保健医療部、市町村
	オオヒキガエル	作業部会	環境省、市町村
	サイカブト	10/30 専門家 11/22 専門家	環境省、県農林水産部
	ツルヒヨドリ	12/6 専門家	環境省
	アメリカハマグルマ	12/6 専門家	環境省
重点予防種	アライグマ	専門家	環境省
	カミツキガメ	作業部会	環境省
	ヒアリ	1/18 作業部会	環境省
	アカカミアリ	1/18 作業部会	環境省
	アルゼンチンアリ	1/18 作業部会	環境省
	セアカゴケグモ	専門家	環境省
産業管理 外来種	セイヨウオオマルハナバチ	12/26 専門家	環境省、営農部局
	クロマルハナバチ	専門家	営農部局
	セイヨウミツバチ	12/17 専門家	県畜産課

### (3) 対策の方針の構成

対策の方針の構成を下記に示す。

現在、案として作成中の方針等について、次ページに一覧として整理した。

表 2-2-3.4 対策の方針の構成案

構成	重点対策種 防除計画	重点予防種 早期発見・防除方針	産業管理外来種 適正管理方針
背景と目的	沖縄県内に <u>定着し</u> 、生態系等への影響が大きいことから <u>重点的に駆除等の防除を実施する必要がある</u> 。本防除計画は、生態系等への影響を軽減するための <u>目標や防除の方針、実施項目等</u> を示すものとする。	沖縄県内には <u>未だ定着していないものの</u> 、侵入した場合、生態系等への影響が大きくなることから <u>重点的に侵入を予防する必要がある</u> 。本早期発見・防除方針は、生態系等への影響を軽減するための <u>目標や早期発見の方法、防除方針、実施項目等</u> を示すものとする。	<u>産業又は公益的役割において重要であり</u> 、現状では生態系等への影響がより小さい代替性を有するものがないため、利用において <u>適切に管理する必要がある</u> 。本適正管理方針は、生態系等への影響を軽減するための <u>取り組みを推進するための目標や方針、実施項目等</u> を示すものとする。
種名	和名、学名を記載する		
指定の状況	特定外来生物、生態系被害防止外来種リスト、世界・日本の侵略的外来種100の指定状況を記載する		
概要	原産地、県内の分布状況、侵入経路を記載する		
生態系等への影響	生態系、農林水産業、人の身体や生命に与える影響を記載する		
目標	対策の目標を示す		
対策の方針	防除の計画を示す (A～Cの3区分)	早期発見と初期防除の方針を示す	適切な管理方針を示す
実施項目	方針に基づいた実施項目を示す		
対象地域	対象とする地域を記載する		
実施体制	実施体制、役割分担を記載する		
対策の方法	効果的な防除の方法を記載する	早期発見の方法、初期防除の方法を記載する	適切な管理方法を記載する
対策事例の紹介	防除事例を紹介する	早期発見や初期防除事例を紹介する	管理事例を紹介する

表 2-2-3.5 重点対策種の防除計画（案）一覧（その1）

	フイリマングース	ノイヌ	ノネコ	ニホンイタチ	ニホンイノシシ
背景と目的	<p>沖縄県内に定着し、生態系への影響が大きいことから重点的に駆除等の防除を実施する必要がある。 本防除計画は、生態系等への影響を軽減するための目標や方法等を示すものとする。</p>				
種名(学名)	<i>Herpestes auro punctatus</i>	<i>Canis lupus</i>	<i>Felis catus</i>	<i>Mustela itatsi</i>	<i>Sus scrofa</i>
指定の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定外来生物</li> <li>緊急対策(生態系被害防止リスト)</li> <li>日本 100</li> <li>世界 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急対策(生態系被害防止リスト)</li> <li>日本 100</li> <li>世界 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急対策(生態系被害防止リスト)</li> <li>日本 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急対策(生態系被害防止リスト)</li> <li>日本 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア～東南アジア</li> <li>沖縄諸島</li> <li>ハブおよびネズミ類駆除目的による意図的導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不明</li> <li>沖縄島、宮古島等</li> <li>飼育個体の遺棄</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中東～北アフリカ</li> <li>県内各地</li> <li>飼育個体の遺棄</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本</li> <li>慶良間諸島・宮古諸島・波照間島・大東諸島</li> <li>放獣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北アフリカ、ユーラシア大陸、日本等</li> <li>慶良間諸島、宮古島、八重山諸島</li> <li>飼育個体の逸脱</li> </ul>
生態系等への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少種を含む在来動物の捕食</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少種を含む在来動物の捕食</li> <li>人及び家畜への被害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少種を含む在来動物の捕食</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少種を含む在来動物の捕食</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少種を含む在来動物の捕食や遺伝子汚染</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系被害が大きい地域での完全排除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系被害が大きい地域での完全排除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系被害が大きい地域での完全排除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系被害が大きい地域での根絶もしくは低密度管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系被害が大きい地域での完全排除</li> </ul>
対策の方針	方針 A 重要区域からの排除(やんばる地域)	方針 A 重要区域からの排除(やんばる地域)	方針 A 重要区域からの排除(やんばる地域)	方針 A 重要区域からの排除(場所ば検討中)	方針 A 重要区域からの排除(慶良間諸島)
→実施項目	①捕獲による防除 ②適正飼育の推進	①捕獲による防除 ②適正飼育の推進	①捕獲による防除 ②適正飼育の推進	①捕獲による防除 ②適正飼育の推進	①捕獲による防除 ②適正飼育の推進
対象地域	環境省・沖縄県「第3期沖縄島北部地域におけるマング	捕獲及びモニタリング：沖縄島やんばる地域	捕獲及びモニタリング：沖縄島やんばる地域	捕獲及びモニタリング：宮古諸島	捕獲およびモニタリング：慶良間諸島とその他地域は検討中
実施体制	一ス防除実施計画(平成29年度～平成38年度)および沖縄県「沖縄県フイリマン	沖縄県環境部 関係市町村	沖縄県環境部 関係市町村	沖縄県環境部 関係市町村	沖縄県環境部 関係市町村
防除方法	グース防除実施計画	生け捕りわな	生け捕りわな	生け捕りわな 補殺わな 探索犬	生け捕りわな くくりわな 銃器 探索犬
防除事例の紹介		沖縄島	沖縄島	座間味島 宮古諸島	宮古島 西表島

生態系被害防止リスト：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト。緊急対策：緊急対策外来種。

世界 100：世界の侵略的外来種ワースト100。日本 100：日本の侵略的外来種ワースト100

表 2-2-3.5 重点対策種の防除計画 (案) 一覧 (その2)

	インドクジャク	コウライキジ	グリーンアノール	タイワンスジオ	タイワンハブ
背景と目的	沖縄県内に定着し、生態系への影響が大きいことから重点的に駆除等の防除を実施する必要がある。本防除計画は、生態系等への影響を軽減するための目標や方法を示すものとする。				
種名 (学名)	<i>Pavo cristatus</i>	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>	<i>Anolis carolinensis</i>	<i>Elaphe taeniura friesi</i>	<i>Protobothrops mucrosquamatus</i>
指定の状況	・緊急対策(生態系被害防止リスト)	・その他対策(生態系被害防止リスト)	・特定外来生物 ・緊急対策(生態系被害防止リスト) ・日本 100	・特定外来生物 ・緊急対策(生態系被害防止リスト) ・日本 100	・特定外来生物 ・緊急対策(生態系被害防止リスト)
概要	・インド、スリランカ等 ・宮古島、伊良部島、石垣島、小浜島、黒島、新城島、与那国島 ・飼育個体の逸出	・中国南東部、朝鮮半島 ・沖縄島、伊是名島、宮古島、石垣島、北大東島 ・放鳥	・アメリカ南東部 ・沖縄島、座間味島 ・飼育個体の遺棄・逸脱、米軍輸送物資など	・台湾 ・沖縄島 ・飼育個体の遺棄・逸脱	・中国南部、台湾 ・沖縄島 ・飼育個体の遺棄・逸脱
生態系等への影響	・希少種や在来種との競合 ・農業被害	・在来鳥類との競合 ・農業被害	・希少種を含む在来動物の捕食や競合	・希少種を含む在来動物の捕食や競合 ・毒による人及び家畜等への影響	・希少種を含む在来動物の捕食や競合 ・毒による人及び家畜等への影響
目標	・西表島へのインドクジャクの侵入を防ぐ。また、定着地域では農業被害や生態系被害を防止させる。	・生態系被害が大きい地域で低密度管理を行い、他地域への拡散を防止する	・未定着の地域への侵入防止	・未定着の地域への侵入防止	・未定着の地域への侵入防止
対策の方針 →実施項目	方針C 拡散の防止 (西表島などへの拡散防止) ①西表島でインドクジャクの分布拡大を警戒し、早期に捕獲を行う →小浜島での密度低減 →西表島での侵入監視 ②インドクジャクの定着地域では、農業被害や生態系影響を低減させる →生鳥域の把握 →密度低減(必要時応じ実施) ③インドクジャクの未定着地域では、侵入を防止する →適正飼育の周知 →重要地域の設置(必要に応じ実施) →侵入監視、初期対応、再侵入の防止(侵入確認後、実施)	方針C 拡散の防止 (やんばる地域への拡散防止) ①沖縄島北部でコウライキジの分布拡大を警戒し、早期に捕獲を行う →北限ラインの把握 →北上の防止 ②コウライキジの定着地域では、農業被害や生態系影響を低減させる →生鳥域の把握 →密度低減 ③コウライキジの未定着地域では、侵入を防止する →普及啓発 →侵入監視、初期対応、再侵入の防止(侵入確認後、実施)	方針C 拡散の防止(やんばる地域への拡散防止) ①未侵入地域への拡散リスクの低減 ②未侵入地域での侵入監視体制の構築 ③捕獲手法の研究	方針C 拡散の防止(やんばる地域への拡散防止) ①未侵入地域への拡散リスクの低減 ②未侵入地域での侵入監視体制の構築 ③捕獲手法の研究	方針C 拡散の防止(やんばる地域への拡散防止) ①未侵入地域への拡散リスクの低減 ②未侵入地域での侵入監視体制の構築 ③捕獲手法の研究

生態系被害防止リスト：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト。緊急対策：緊急対策外来種。その他対策：その他の総合対策外来種。

日本 100：日本の侵略的外来種ワースト 100

表 2-2-3.5 重点対策種の防除計画（案）一覧（その2）続き

対象地域	インドクジャク	コウライキジ	グリーンアノール	タイワンスジ	タイワンハブ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>西表島への侵入を防止するために捕獲を実施する地域：小浜島</li> <li>侵入を警戒し、侵入監視する地域：西表島</li> <li>農業被害や生態系被害が懸念される地域：クジャクの定着地域</li> <li>侵入の防止：未定着域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やんばる地域への侵入を警戒する地域：恩納村、読谷村、金武町以北</li> <li>農業被害や生態系被害が懸念される地域：キジの定着地域</li> <li>侵入の防止：未定着域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>密度低下を実施する地域：那覇市、豊見城村とその周辺地域および座間味島</li> <li>侵入を警戒し、侵入監視する地域：沖繩島やんばる地域および、座間味島を除く慶良間諸島の有人島</li> <li>普及啓発：沖繩島全域、慶良間諸島全域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>侵入を警戒し、侵入監視する地域：沖繩島やんばる地域</li> <li>普及啓発：沖繩島全域</li> <li>侵入防止柵：マングース柵を利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>密度低下を実施する地域：名護市</li> <li>侵入を警戒し、侵入監視する地域：沖繩島やんばる地域</li> <li>普及啓発：沖繩島全域</li> <li>侵入防止柵：マングース柵を利用</li> </ul>
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策全体：沖繩県環境部自然保護課</li> <li>その他、環境省、関係市町村との連携は検討中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策全体：沖繩県環境部自然保護課</li> <li>その他、環境省、関係市町村との連携は検討中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖繩県環境部</li> <li>関係市町村</li> <li>環境省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖繩県環境部</li> <li>関係市町村</li> <li>環境省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖繩県環境部</li> <li>沖繩県保健医療部</li> <li>関係市町村</li> </ul>
防除方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねぐら探索＋空気銃</li> <li>ねぐら探索＋くくり紐</li> <li>営巣卵の駆除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>銃器</li> <li>箱わな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラップ</li> <li>拡散防止対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラップ</li> <li>拡散防止対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラップ</li> <li>拡散防止対策</li> </ul>
防除事例の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>新城島</li> <li>黒島</li> <li>小浜島</li> <li>石垣島</li> <li>宮古島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊是名島</li> <li>石垣島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原諸島</li> <li>沖繩島</li> <li>座間味島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖繩島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖繩島</li> </ul>

表 2-2-3.5 重点対策種の防除計画（案）一覧（その3）

	オオヒキガエル	サイカブト	ツルヒヨドリ	アメリカハマグルマ
背景と目的	沖縄県内に定着し、生態系への影響が大きいかことから重点的に駆除等の防除を実施する必要がある。 本防除計画は、生態系等への影響を軽減するための目標や方法を示すものとする。			
種名（学名）	<i>Bufo marinus</i>	<i>Oryctes rhinoceros</i>	<i>Mikania micrantha</i>	<i>Wedelia trilobata</i>
指定の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定外来生物</li> <li>緊急対策（生態系被害防止リスト）</li> <li>日本 100</li> <li>世界 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定外来生物</li> <li>緊急対策（生態系被害防止リスト）</li> <li>世界 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急対策（生態系被害防止リスト）</li> <li>世界 100</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米南部～南米北部</li> <li>石垣島、大東諸島</li> <li>サトウキビ害田駆除目的の意図的導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アジア、東南アジア</li> <li>県内各地</li> <li>石垣島、沖縄島には台湾からヤシ類とともに持ち込まれ、その他離島には苗木とともに侵入したと考えられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北米の熱帯地域</li> <li>沖縄島、石垣島、西表島、与那国島</li> <li>不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロリダ南部～熱帯アメリカ</li> <li>県内各地</li> <li>法面等の緑化用として導入</li> </ul>
生態系等への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少種を含む在来動物の捕食や競合、毒による影響</li> <li>毒による人及び家畜等への影響</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤシ類等の食害</li> <li>ヒサマツサイカブトとの競合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在来植物を被覆</li> <li>農業被害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在来植物を被覆</li> <li>在来種との交雑</li> </ul>
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>未定着の島への侵入防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大東諸島において、サイカブトによるピロウ林への被害を低減する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やんばる地域および西表島からの排除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少な在来植物がアメリカハマグルマの被圧により減少することを防ぐ</li> </ul>
対策の方針 →実施項目	<b>方針C 拡散の防止</b> (石垣島、大東諸島からの拡散防止) ①未侵入地域への拡散リスクの低減 ②未侵入地域での侵入監視体制の構築 ③捕獲手法の研究	<b>方針B 重要区域における低密度管理</b> (大東諸島) ①大東諸島のピロウへの被害を軽減するため、サイカブトを低密度管理する →トラップによる捕獲 →発生源の除去 ②島民へ事業成果を還元するとともに、生態系保全への関心を引き出す →事業成果の還元	<b>方針A 重要区域からの排除</b> (やんばる地域および西表島) ①自然環境保全上重要な地域において、早期に除去を行う →侵入状況の把握 →重点対策地域でモニタリング →重点対策地域で除去 →対策地域でモニタリング →対策地域で拡散の予防 ②拡散防止のため県民・事業者への普及啓発を行う →危険性と注意点を周知する	<b>方針A 重要区域からの排除</b> (希少植物生育地) ①希少な在来植物の生育地に侵入し、影響が著しい場合は除去を行う →侵入を警戒する生物多様性の保全上重要な地域を設定する →警戒対象地においてモニタリングを行う →警戒対象地において除去を行う ②県民・事業者に野外への植栽や運葉を行わないよう普及啓発を行う →危険性と注意点を周知する →植栽や運葉の制限

生態系被害防止リスト：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト。緊急対策：緊急対策外来種。

世界 100：世界の侵略的外来種ワースト 100。日本 100：日本の侵略的外来種ワースト 100

表 2-2-3.5 重点対策種の防除計画（案）一覧（その3）続き

対象地域	オオヒキガエル	サイカブト	ツルヒヨドリ	アメリカハマグルマ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>密度低下を実施する地域：石垣島</li> <li>侵入を警戒し、侵入監視する地域：沖縄島、石垣島を除く八重山諸島の有人島</li> <li>普及啓発：沖縄島全域、大東諸島、八重山諸島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北大東島</li> <li>南大東島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄島やんばる地域および西表島</li> <li>上記の周辺地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少な植物が生育する湿地、溪流、海岸沿いなどの警戒対象地</li> <li>普及啓発：県内全域</li> </ul>
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県環境部</li> <li>関係市町村</li> <li>環境省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策全体：沖縄県環境部自然保護課</li> <li>その他の体制は検討中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策全体：沖縄県環境部自然保護課</li> <li>沖縄県土木建築部、環境省、市町村</li> <li>施設管理者、地域住民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策全体：沖縄県環境部自然保護課</li> <li>環境省、市町村</li> </ul>
防除方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>トラップ</li> <li>戻つけ取り</li> <li>拡散防止対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フェロモントラップによる捕獲</li> <li>発生源の除去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>除去</li> <li>処分</li> <li>拡散防止対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>除去</li> <li>処分</li> </ul>
防除事例の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>石垣島</li> <li>西表島</li> <li>浦添市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大東諸島における取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄島やんばる地域</li> <li>西表島</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>与那国島久部良ハリ</li> <li>沖縄島新川川</li> <li>西表島千立</li> </ul>



表 2-2-3-6 重点予防種の早期発見・防除方針（案）一覧（その1）

	アライグマ	カミツキガメ
背景と目的	<p>沖縄県内には未だ定着していないものの、侵入した場合、生態系への影響が大きくなることから重点的に侵入を予防する必要がある。 本早期発見・防除方針は、生態系等への影響を軽減するための目標や方法等を示すものとする。</p>	
種名（学名）	<p><i>Procyon lotor</i></p>	
指定の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物</li> <li>・日本 100</li> </ul>	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北米から中米</li> <li>・未定着</li> <li>・飼育個体</li> </ul>	
生態系等への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在来生物の捕食</li> <li>・人畜共通感染症</li> <li>・農業・畜産業被害</li> </ul>	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・侵入の防止</li> </ul>	
対策の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>①侵入の監視</li> <li>②発見時は速やかに排除する</li> </ul>	
実施項目		
対象地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県全域</li> </ul>	
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県環境部</li> <li>・関係市町村</li> </ul>	
（ ）の組織とは未調整のため現時点では案		
早期発見の方法		
初期防除の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生け捕りわな</li> <li>・ソフトキヤッチ</li> <li>・エッグトラップ</li> </ul>	
防除事例（マニュアル）の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本各地</li> </ul>	

生態系被害防止リスト：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト。緊急対策：緊急対策外来種。侵入予防：侵入予防外来種。  
日本 100：日本の侵略的外来種ワースト 100

表 2-2-3.6 重点予防種の早期発見・防除方針（案）一覽（その 2）

	ヒアリ	アカカミアリ	アルゼンチンアリ	セアカゴケグモ
背景と目的	沖縄県内には未だ定着していないものの、侵入した場合、生態系への影響が大きくなることから重点的に侵入を予防する必要がある。本早期発見・防除方針は、生態系等への影響を軽減するための目標や方法等を示すものとする。			
種名（学名）	<i>Solenopsis invicta</i>	<i>Solenopsis geminata</i>	<i>Linepithema humile</i>	<i>Latrodectus hasseltii</i>
指定の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物</li> <li>・侵入予防（生態系被害防止リスト）</li> <li>・世界 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物</li> <li>・緊急対策（生態系被害防止リスト）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物</li> <li>・侵入予防（生態系被害防止リスト）</li> <li>・日本 100</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定外来生物</li> <li>・緊急対策（生態系被害防止リスト）</li> <li>・日本 100</li> </ul>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南米</li> <li>・未定着</li> <li>・コンテナ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国南部から中米</li> <li>・未定着</li> <li>・コンテナ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南米</li> <li>・未定着</li> <li>・木材、コンテナ、切り花、園芸植物、園芸資材など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア</li> <li>・未定着</li> <li>・コンテナ、パレット、建築資材、長期間駐車していた車両や自転車など</li> <li>・人への咬傷被害</li> </ul>
生態系等への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在来動物の捕食</li> <li>・農業・畜産業への被害</li> <li>・人への刺傷被害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在来動物の捕食</li> <li>・農業・畜産業への被害</li> <li>・人への刺傷被害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在来アリ類との競争</li> <li>・不快害虫</li> <li>・農業被害</li> </ul>	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリの侵入を防止する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アカカミアリの侵入を防止する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゼンチンアリの侵入を防止する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セアカゴケグモの侵入を防止する</li> </ul>
対策の方針 →実施項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ヒアリの侵入を監視する</li> <li>→調査によって生息域を把握する（輸入港：目視、誘引トラップ、SLAM トラップ）</li> <li>→県民や事業者から情報を集める（ホームページ）</li> <li>② ヒアリが発見された地域から排除する</li> <li>→侵入したヒア리를排除する（沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに基づき実施）</li> <li>→再侵入の防止（侵入経路の特定と対策）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アカカミアリの侵入を監視する</li> <li>→調査によって生息域を把握する（輸入港：目視、誘引トラップ、SLAM トラップ）</li> <li>→県民や事業者から情報を集める（ホームページ）</li> <li>② アカカミアリが発見された地域から排除する</li> <li>→侵入したアカカミアリを排除する（沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに基づき実施）</li> <li>→再侵入の防止（侵入経路の特定と対策）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① アルゼンチンアリの侵入を監視する</li> <li>→調査によって生息域を把握する（輸入港：目視、粘着トラップ、誘引トラップ）</li> <li>→県民や事業者から情報を集める（アリ見分け方資料作成、ホームページ）</li> <li>② アルゼンチンアリが発見された地域から排除する</li> <li>→侵入したアルゼンチンアリの排除（アルゼンチンアリ防除の手引きを参考に実施）</li> <li>→再侵入の防止（侵入経路の特定と対策）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① セアカゴケグモの侵入を監視する</li> <li>→調査によって生息域を把握する（輸入港：目視）</li> <li>→県民や事業者から情報を集める（ホームページ）</li> <li>② セアカゴケグモが発見された地域から排除する</li> <li>→侵入したセアカゴケグモを排除する（沖縄県環境整備課作成資料：ハイイロゴケグモを参考に実施）</li> <li>→再侵入の防止（侵入経路の特定と対策）</li> </ul>
対象地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港灣（輸入：国外）</li> <li>・保税地域</li> <li>・米軍基地周辺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港灣（輸入：国外）</li> <li>・保税地域</li> <li>・米軍基地周辺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港灣（移入：国内）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港灣地域周辺（移入：国内）</li> </ul>

生態系被害防止リスト：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト。緊急対策：緊急対策外来種。侵入予防：侵入予防外来種。  
世界 100：世界の侵略的外来種ワースト 100。日本 100：日本の侵略的外来種ワースト 100

表 2-2-3-3.6 重点予防種の早期発見・防除方針（案）一覧（その2）続き

	ヒアリ	アカカミアアリ	アルゼンチンアリ	セアカゴケグモ
実施体制（ ）の組織とは未調整のため現時点では案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県環境部（港湾周辺、保税地域周辺、米軍基地周辺）</li> <li>（・環境省（港湾））</li> <li>（・那覇港管理組合（那覇港））</li> <li>（・県民、事業者）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県環境部（港湾周辺、保税地域周辺、米軍基地周辺）</li> <li>（・環境省（港湾））</li> <li>（・那覇港管理組合（那覇港））</li> <li>（・県民、事業者）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県環境部（港湾周辺）</li> <li>（環境省、市町村、県環境整備課）</li> </ul>	
早期発見の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>※沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに従う</li> <li>・行政による監視（港湾等）</li> <li>・事業者による監視（コンテナ）</li> <li>・県民による監視（アリ塚）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに従う</li> <li>・行政による監視（港湾等）</li> <li>・事業者による監視（コンテナ）</li> <li>・県民による監視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※アルゼンチンアリ防除の手引きの事例を参考にす</li> <li>・行政による監視（港湾）</li> <li>・県民、事業者による監視</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政による監視</li> <li>・県民や事業者による監視</li> </ul>
初期防除の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>※沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに従う</li> <li>・港湾内やコンテナなど管理区域への発見の場合</li> <li>・野外での確認の場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに従う</li> <li>・港湾内やコンテナなど管理区域への発見の場合</li> <li>・野外での確認の場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※アルゼンチンアリ防除の手引きに従う</li> <li>・野外での確認の場合</li> <li>※沖縄県ヒアリ等総合対策マニュアルに準じて実施する</li> <li>・港湾内やコンテナなど管理区域への発見の場合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ハイイロゴケグモに係る注意喚起について（沖縄県環境整備課）に準じて実施する</li> </ul>
防除事例（マニュアル）の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリの防除に関する基本的考え方 Ver.1.1（環境省）</li> <li>・神戸市ヒアリ等対策マニュアル第1版（神戸市）</li> <li>・岡山県ヒアリ対策マニュアル Ver.1.1（岡山県）</li> <li>・福岡県ヒアリ等対応マニュアル（福岡県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリの防除に関する基本的考え方 Ver.1.1（環境省）</li> <li>・神戸市ヒアリ等対策マニュアル第1版（神戸市）</li> <li>・岡山県ヒアリ対策マニュアル Ver.1.1（岡山県）</li> <li>・福岡県ヒアリ等対応マニュアル（福岡県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゼンチンアリ防除の手引き（環境省）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモにご注意ください！（環境省）</li> <li>・どうしたらいいの？セアカゴケグモの駆除方法（福岡市）</li> </ul>

表 2-2-3.7 産業管理外来種の適正管理方針（案）一覽

	セイヨウオオマルハナバチ	クロマルハナバチ	セイヨウミツバチ
背景と目的	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さい代替性を有するものなどがいないため、利用において適切に管理する必要がある。 本適正管理方針は、生態系等への影響を軽減するための取り組みを推進するための目標や方針、実施項目等を示すものとする。		
種名（学名）	<i>Bombus terrestris</i>	<i>Bombus ignitus</i>	<i>Apis mellifera</i>
指定の状況	・特定外来生物 ・産業管理（生態系被害防止リスト）	特になし	特になし
概要	・ヨーロッパ ・野外定着はしていないと思われる ・主に沖縄島でトマト栽培に利用	・日本（本州、四国、九州）、朝鮮半島、中国東北～中部 ・野外定着はしていないと思われる ・少数の農家がトマト栽培等に利用	・アフリカ、ヨーロッパ～中央アジア ・県内各地（野外営巣は沖縄島、西表島で確認） ・県内各地で養蜂場利用
生態系等への影響	・在来ハナバチ類との競合 ・盗密による在来植物への影響	・在来ハナバチ類との競合 ・盗密による在来植物への影響	・在来生物への影響（古巣や自然樹洞の利用） ・在来送粉系のかく乱
目標	・セイヨウオオマルハナバチが適切に管理され、野外への逸出・定着が予防される	・クロマルハナバチが適切に管理され、野外への逸出・定着が予防される	・セイヨウミツバチの野生化を防止し、特にやんばる等の保全上重要な地域における蔓延を防ぐ
対策の方針 →実施項目	①モニタリングを実施し、逸出状況を把握する →モニタリング ②野外巣が確認された場合、速やかに防除を実施する →関係機関等との連携体制の構築 →速やかな防除と周辺モニタリング ③農家に対する逸出防止対策を促進する →農家による逸出防止措置の促進	①モニタリングを実施し、逸出状況を把握する →モニタリング ②野外巣が確認された場合、速やかに防除を実施する →関係機関等との連携体制の構築 →速やかな防除と周辺モニタリング ③農家に対する逸出防止対策を促進する →農家による逸出防止措置の促進	①野外営巣を阻止するための管理方法を開発し、普及する →分蜂を防止する樹脂製の巣脾の試験的運用と普及 →分蜂群の野外営巣を阻止するための空き巣箱の試験的設置と普及
対象地域	—	—	—
実施体制	・モニタリング：沖縄県環境部自然保護課 ・野外巣発見時の防除： ・農家への指導、普及啓発：	・モニタリング：沖縄県環境部自然保護課 ・野外巣発見時の防除： ・農家への指導、普及啓発：	・対策全体：沖縄県環境部自然保護課、沖縄県農林水産部畜産課（要調整）
適正管理の方法	外来生物法に基づき実施。ここでは下記を記載 ・モニタリング（直接観察法、捕獲） ・防除（野外巣）	セイヨウオオマルハナバチの代替種の利用方針に基づき実施。ここでは下記を記載 ・モニタリング（直接観察法、捕獲） ・防除（野外巣）	—
適正管理事例の紹介	・北海道での取り組みを紹介	防除事例は無し	—
生態系被害防止リスト	我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト。産業管理：産業管理外来種。		

沖縄県外来種対策行動計画に基づく  
外来植物の適正利用方針（案）

Ver. 1.0

平成 31 年 3 月

沖縄県

## 1. 外来植物の適正利用に関する基本方針

### (1) 本方針の目的

本方針は、農業や、畜産業、緑化など様々な場面で広く利用されている多くの外来植物について、その適切な利用を促すとともに、外来植物の問題についての認識を高め、地域の環境を守りながら、今後も有用な植物資源を継続的に利用していくため、外来植物を適正に利用するための方針を定めたものである。

### (2) 用語（環境省自然保護局－日本の外来種対策 HP より引用・一部加筆）

- ・ 外来種（外来植物）：導入（意図的・非意図的を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外へ移動させること。導入の時期は問わない。）によりその自然分布域（その生物が本来有する能力で移動できる範囲により定まる地域）の外に生育又は生息する生物種（植物種）（分類学的に異なる集団とされる、亜種、変種を含む）。
- ・ 侵略的外来種（侵略的外来植物）：外来種（外来植物）のうち、わが国の生態系、人の生命・身体、農林水産業等への被害を及ぼす又は及ぼすおそれがあるなど、特に侵略性が高く、自然状態では生じ得なかった影響をもたらすもの。
- ・ 在来種（在来植物）：もともとその生息地に生息していた生物種（植物種）の個体および集団。

### (3) 外来植物の利用に際しての基本理念

外来植物の利用に際しては、環境省が勧める外来種予防三原則に準じて、下記の理念を定める。

- a. 新たな侵略的外来植物を侵入させない。
- b. 既に利用している侵略的外来植物については逸出させない。
- c. 逸出が確認されている侵略的外来植物については分布を拡大させない。

### (4) 外来植物を利用するための基本認識

外来植物を適正に利用するためには、侵略的外来種や外来種問題についての正しい認識を持つ必要がある。

- a. 侵略的外来植物が生物多様性や農業、人の健康等に与える被害について、正しい認識を持った上で外来植物の利用にあたる。
- b. 沖縄県が定める「沖縄県対策外来種リスト」に掲載されておらず一般的に在来種とされる種であっても、他地域（県外や県内の別の島など）から持ち込まれたものは、もともと生育していた植物との交雑によって遺伝子汚染を引き起こす可能性があることから、侵略的外来植物として考える。
- c. 「沖縄県対策外来種リスト」に掲載された植物を把握し、関係機関に周知するとともに、利用等に関する情報を共有する。
- d. 現時点で利用されている植物で侵略的外来種とされていない種であっても、逸出等により侵略的な影響をおよぼす可能性があることを理解する。
- e. 外来種に関する最新の情報を収集整理する。
- f. 上記の認識、情報について広く一般に普及するよう啓発を行う。

#### (5) 未定着の侵略的外来植物について

これまでに定着が確認されていない侵略的外来植物については、新たに定着しないよう留意する必要がある。

- a. 侵略的外来種については今後意図的な導入は行わない(未定着の侵略的外来種については「沖縄県対策外来種リスト」の「重点予防種」、「予防種」を参考とする)。
- b. 関係機関に対し利用しないよう情報共有と注意喚起を行う。
- c. 他地域から持ち込む種子や種苗には侵略的外来種の種子等が混入している可能性あることを認識し、非意図的な導入を行わないよう注意する。
- d. 非意図的に持ち込まれる可能性のある侵略的外来植物についてリスト化し、情報の収集を行う。
- e. 上記の認識、方針について広く一般に啓発を行うとともに注意喚起を行う。

#### (6) 既に定着し利用されている侵略的外来植物について

既に定着又は利用が確認されている侵略的外来植物（「沖縄県対策外来種リスト」の「重点対策種」、「対策種」を参考とする）については、逸出させないよう留意する必要がある。

- a. 既に広く利用され、代替が困難な場合は、逸出させないような管理方法、処分方法について調査・研究を行い、その普及啓発を行う。
- b. 既に広く利用されているものの、代替が可能な在来植物等が存在する場合には、代替となる植物について調査・研究を行い、順次切り替えを検討する。
- c. 現時点で限定的な利用に留まっているものについては、積極的な利用は避け、推奨種や補助対象から除外するなどの対応を行う。
- d. 関係機関に対し積極的な利用は行わないよう情報共有と注意喚起を行う。
- e. 上記の認識、方針について広く一般に啓発を行うとともに注意喚起を行う。

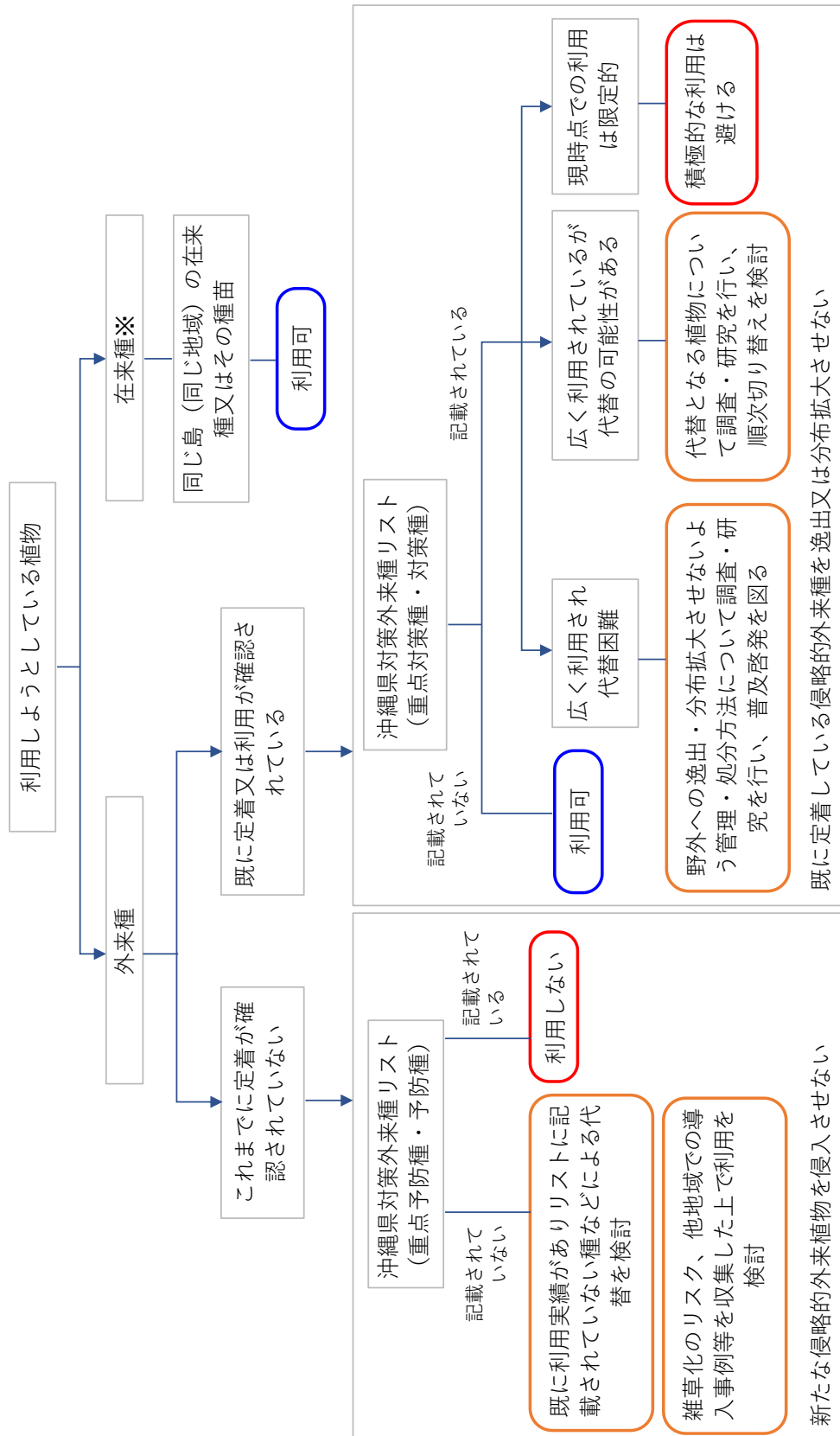
#### (7) その他の外来植物について

これまでに広く利用されてきた実績をもつ外来植物で、「沖縄県対策外来種リスト」に掲載されていない植物については、現時点では生物多様性等に被害を与えないと考えられている。しかし、今後、気候や周辺生物との関係性、植物自体の適応等により、侵略的になる可能性がないとは言えない。また、「沖縄県対策外来種リスト」自体が、全ての植物を網羅して検討されたものではないため、「重点予防種」や「予防種」として示されている種以外の外来種で新たに持ち込まれる種に対しては不完全なものであることを理解する必要がある。上記のような状況を考慮すると外来植物の無秩序な導入・利用は極力避けるべきである。

- a. 導入を検討している新規外来植物がある場合には、その代替となる在来種やこれまでに利用実績があつて「沖縄県対策外来種リスト」に掲載されていない植物などの生態系等への影響の少ない植物の利用を検討する。
- b. 導入または積極利用しようとしている外来植物については、生態系等への影響の可能性、雑草化のリスク、他地域での導入事例などの情報を事前に収集する。
- c. 必要に応じて収集した情報を基に専門家へアドバイスを求める。
- e. 関係機関に対し無秩序に導入または積極利用を行わないよう情報共有と注意喚起を行う。

f. 上記の認識、方針について広く一般に啓発を行うとともに注意喚起を行う。

## 2. 植物を利用する際の検討フロー



※国内に生育する植物であっても、本来の生息域を越えて侵入した植物は外来種とする。また、沖縄県内の別の島から持ち込まれる植物やその種苗についても本来の生息域を越えて侵入した植物は外来種とする(沖縄県外来種対策指針参照)。



### 3. 参考資料

#### 3.1 沖縄県対策外来種リスト（植物）

以下に沖縄県が定める「沖縄県対策外来種リスト」の植物部分を抜粋して掲載する。

#### (1) 防除対策外来種（沖縄県に定着しており、生態系に影響があると考えられる外来種）

##### 1) 重点対策種

門	科	種類名	学名	備考
被子植物	キク	ツルヒヨドリ(ツルギク、ミカニア・ミクランサ)	<i>Mikania micrantha</i>	
		アメリカハマグルマ(ミツバハマグルマ)	<i>Sphagneticola trilobata</i> ( <i>Wedelia trilobata</i> )	

##### 2) 対策種

門	科	種類名	学名	備考
シダ植物	サンショウモ	オオサンショウモ	<i>Salvinia molesta</i>	
	アカウキクサ	外来アゾラ類	<i>Azolla</i> spp.	
被子植物	モクマオウ	トクサバモクマオウ(トキワギョリュウ)	<i>Casuarina equisetifolia</i>	その他和名:モクマオウ
	クワ	パンノキ	<i>Artocarpus altilis</i>	
	イラクサ	コゴメミズ(コメバコケミズ、ピレア・ミクロフィラ)	<i>Pilea microphylla</i>	
	ヤマゴボウ	ジュズサンゴ	<i>Rivina humilis</i>	
	スベリヒユ	ケツメクサ(ヒメマツバボタン、ケツメグサ)	<i>Portulaca pilosa</i>	その他和名:マルバケツメグサ、ケツメグサ
	ツルムラサキ	アカザカズラ	<i>Anredera cordifolia</i>	その他和名:マデイラカズラ、ツルアカザ
		ツルムラサキ	<i>Basella rubra</i>	
	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	
	ベンケイソウ	セイロンベンケイ(トウロウソウ、セイロンベンケイソウ、ハカラメ)	<i>Bryophyllum pinnatum</i> ( <i>Kalanchoe Pinnata</i> )	
	マメ	ソウシジュ(タイワンアカシア)	<i>Acacia confusa</i>	
		ギンネム(ギンゴウカン、タマザキセンナ)	<i>Leucaena leucocephala</i>	
		シナノクス(アマクス)	<i>Pueraria thomsonii</i>	
	ムクロジ	コフウセンカズラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i> var. <i>microcarpum</i>	
	ツリフネソウ	アフリカホウセンカ	<i>Impatiens walleriana</i>	
	アオイ	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>	
	サボテン	ドラゴンフルーツ(サンカクサボテン類)	<i>Hylocereus</i> sp.	
		ウチワサボテン	<i>Opuntia ficusindica</i>	
		センニンサボテン	<i>Opuntia stricta</i>	
	スイレン	園芸スイレン	<i>Nymphaea</i> cv.	
	キントラノオ	アセロラ	<i>Malpighia emarginata</i>	
	トケイソウ	クサトケイソウ(パッシフローラ・フォエティダ、ワイルドパッションフルーツ)	<i>Passiflora foetida</i>	
		ヒメトケイソウ	<i>Passiflora minima</i>	
ミスミトケイソウ(クロミノトケイソウ)		<i>Passiflora suberosa</i> var. <i>suberosa</i>		
ウリ	ヤサイカラスウリ	<i>Coccinia grandis</i>		
フトモモ	タチバナアデク(ピタンガ)	<i>Eugenia uniflora</i>		
	テリハバンジロウ(キバンジロウ、キバンザクロ、シマフトモモ)	<i>Psidium cattleianum</i>	その他和名:キミノバンジロウ、ストロベリーグアバ	
	フトモモ	<i>Syzygium jambos</i>		
アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>		
セリ	ウチワゼニクサ(タテバチドメグサ)	<i>Hydrocotyle verticillata</i> var. <i>triradiata</i>		
ヤブコウジ	コウトウタチバナ(セイロンマンリョウ)	<i>Ardisia elliptica</i>		
ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>		
	モミジバヒルガオ(タイワンアサガオ、モミジヒルガオ)	<i>Ipomoea cairica</i>		

## 2) 対策種 (続き)

門	科	種類名	学名	備考
	クマツヅラ	シチヘンゲ(ランタナ)	<i>Lantana camara</i>	
		ヒメイワダレソウ(ヒメイワダレ)	<i>Phyla canescens</i>	
		チリメンナガボソウ(ホナガソウ)	<i>Stachytarpheta dichotoma</i>	
		フトボナガボソウ(インドナガボソウ)	<i>Stachytarpheta jamaicensis</i>	
		ナガボソウ	<i>Stachytarpheta urticaefolia</i>	
	ナス	キダチチョウセンアサガオ	<i>Brugmansia suaveolens</i>	
		チョウセンアサガオ	<i>Datura metel</i>	
		シロバナチョウセンアサガオ (ヨウシュチョウセンアサガオ、シロバナヨウシュチョウセンアサガオ)	<i>Datura stamonium</i>	
	キツネノマゴ	ヤナギバルイラソウ(ムラサキイセハナビ、ルエリア・プリトリアナ、リュエリア、メキシコベチュニア)	<i>Ruellia brittoniana</i>	
		ベンガルヤハズカズラ(ウリパローレルカズラ)	<i>Thunbergia grandiflora</i>	
	タヌキモ	オオバナイトタヌキモ(ウトリクラリア・ギツバ)	<i>Utricularia gibba</i>	
	キク	カッコウアザミ (カッコアザミ)	<i>Ageratum conyzoides</i>	
		ムラサキカッコウアザミ(オオカッコウアザミ)	<i>Ageratum houstonianum</i>	
		タチアワユキセンダングサ (オオバナノセンダングサ)	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>	その他和名:シロノセンダングサ、アワユキセンダングサ、オオバナセンダングサ、ハイシロノセンダングサ、ハイアワユキセンダングサ)
		オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	
		ヒマワリヒヨドリ	<i>Chromolaena odorata</i>	
		ヒイラギギク	<i>Pluchea indica</i>	
		タワダギク	<i>Pluchea odorata</i>	
		オオハンゴンソウ (ハナガサギク)	<i>Rudbeckia laciniata</i>	
		シロバナタンポポ	<i>Taraxacum albidum</i>	
		タカサゴタンポポ	<i>Taraxacum formosanum</i>	
		アカミタンポポ	<i>Taraxacum laevigatum</i>	
		セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>	
		トチカガミ	オオカナダモ(アナカリス)	<i>Egeria densa</i>
	アマゾントチカガミ(アマゾンフロッグビット、リムノビウム・ラエビガータム)		<i>Limnobium laevigatum</i>	
	ユリ	アスパラガス属の一種	<i>Asparagus</i> sp.	
	リュウゼツラン	アオリュウゼツラン(リュウゼツラン)	<i>Agave americana</i>	
		アツバチトセラ (サンスベリア)	<i>Sansevieria trifasciata</i>	その他和名:サンセベリア
	ミズアオイ	ホテイアオイ (ウォーターヒヤシンス)	<i>Eichhornia crassipes</i>	その他和名:ホテイソウ
	イネ	ダイサンチク (タイサンチク)	<i>Bambusa vulgaris</i>	
		モンツキガヤ(アイダガヤ、ナンゴクヒメアブラススキ)	<i>Bothriochloa bladhii</i>	
		ムラサキタカオススキ	<i>Saccharum formosanum</i> var. <i>pollinioides</i>	
		ギネアキビ (ギネアグラス、ギネアキビ、イヌキビ)	<i>Panicum maximum</i>	
シマスズメノヒエ(ダリスグラス)		<i>Paspalum dilatatum</i>		
アメリカスズメノヒエ(ハビアグラス、オニスズメノヒエ)		<i>Paspalum notatum</i>		
タチスズメノヒエ(ペイジーグラス)		<i>Paspalum urvillei</i>		
ナピアグラス (ネピアグラス、エレファントグラス、ペルーグラス)		<i>Pennisetum purpureum</i>		
ホテイチク (ゴサンチク)		<i>Phyllostachys aurea</i>		
ヨシススキ(サッカラム パープルピープルグリーター)		<i>Saccharum arundinaceum</i>		
ヤシ		トウ属の一種(カラムス)	<i>Calamus</i> sp.	
	サトイモ	オウゴンカズラ (ポトス)	<i>Epipremnum aureum</i>	
		ホウライショウ(モンステラ)	<i>Monstera deliciosa</i>	
		ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	
		オオミツバカズラ	<i>Syngonium auritum</i>	
		アメリカサトイモ	<i>Xanthosoma sagittifolium</i>	
	カヤツリグサ	シュロガヤツリ(カラカサガヤツリ)	<i>Cyperus alternifolius</i>	
	ショウガ	ハナシユクシャ(シユクシャ、パタフライジンジャー)	<i>Hedychium coronarium</i>	

(2) 定着予防外来種（沖縄県では未定着であり、定着を予防すべき種）

1) 重点予防種

該当種なし

2) 予防種

門	科	種類名	学名	備考
被子植物 (双子葉植物)	イラクサ	ヤツデグワ	<i>Cecropia peltata</i>	
		ケクロピア・シュレベリアナ	<i>Cecropia schreberiana</i>	
	タデ	ツルドクダミ(カシュウ、何首烏)	<i>Fallopia multiflora</i>	
	マタタビ	キウイフルーツ(シナサルナシ)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	
	ケシ	ハカマオニゲシ(ポタンゲシ)	<i>Papaver bracteatum</i>	
		アツミゲシ	<i>Papaver somniferum</i> ssp. <i>setigerum</i>	
	ベンケイソウ	クラッスラ・ヘルムシー	<i>Tillaea helmsii</i>	
	マメ	エニシダ(エニスダ)	<i>Cytisus scoparius</i>	
	サボテン	ウチワサボテン属	<i>Opuntia</i> spp.	但し、ウチワサボテン、センニンサボテンを除く
	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	
	フトモモ	ムラサキフトモモ(ヨウミヤクアデク、メンゲラック、ムレザキフトモモ)	<i>Syzgium cumini</i>	
	ノボタン	アメリカクサノボタン	<i>Clidemia hirta</i>	
	アカバナ	オオバナミズキンバイなどを含むルドウイギア・グランディフロラ	<i>Ludwigia grandiflora</i> (L. <i>grandiflora</i> ssp. <i>grandiflora</i> )	
		アメリカミズユキノシタ(ルドウイジア・レベンス)	<i>Ludwigia repens</i>	
	ウコギ	シェフレラ・アクチノフィラ(ブラッサイア、オクトバスターリー)	<i>Schefflera actinophylla</i>	
	セリ	ドクニンジン	<i>Conium maculatum</i>	
		ブラジルチドメグサ	<i>Hydrocotyle ranunculoides</i>	
	トベラ	シマトベラ(トウソヨゴ)	<i>Pittosporum undulatum</i>	
	スイレン	ハゴロモモ(フサジュンサイ、カモンバ)	<i>Cabomba caroliniana</i>	
	モクセイ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	
	ガガイモ	オオバナアサガオ(インドゴムカズラ)	<i>Cryptostegia grandiflora</i>	
	ヒルガオ	外来ノアサガオ類	<i>Ipomoea</i> spp. ( <i>Pharbitis</i> spp.)	但し、ヨウサイ、サツマイモ、モミジヒルガオ、コダチアサガオ、コバナミミアサガオ、ネコアサガオ、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、マメアサガオ、トゲヨルガオ、コアサガオ、ヒメノアサガオ、キクザアサガオ、タマザキアサガオ、フウリンアサガオ、マルバアサガオ、イモネノホシアサガオ、ホシアサガオを除く
	クマツヅラ	ナガボソウ属	<i>Stachytarpheta</i> spp.	但し、チリメンナガボソウ、フトナガボソウ、ナガボソウを除く
	アワゴケ	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>	
	ナス	チョウセンアサガオ属	<i>Datura</i> spp. ( <i>Brugmansia</i> spp.)	但し、キダチチョウセンアサガオ、チョウセンアサガオ、シロバナチョウセンアサガオを除く
		ダイオウナスビ	<i>Solanum mauritanum</i>	
	フジウツギ	フサフジウツギ(ニシキフジウツギ、チチブフジウツギ、フッドレア)	<i>Buddleja davidii</i>	
ゴマノハグサ	ウキアゼナ(バコパ・ロトンディフォリア、カラカワクサ)	<i>Bacopa roundifolia</i>		
	ハビコリハコベ(グロツスティグマ)	<i>Glossostigma elatinooides</i>		
	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>		
タヌキモ	エフクレタヌキモ	<i>Utricularia inflata</i>		
ノウゼンカズラ	トラノツメ(ネコノツメ)	<i>Macfadyena unguis-cati</i>		

2) 予防種 (続き)

門	科	種類名	学名	備考
	キク	ワタゲハナグルマ(ワタゲツルハナグルマ、アークトセカ・カレンジュラ)	<i>Arctotheca calendula</i> 、 <i>A. prostrata</i>	
		ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	
		ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	
		外来性タンポポ种群	<i>Taraxacum officinale</i> 、 <i>T. spp.</i>	但し、シロバナタンポポ、タカサゴタンポポ、アカミタンポポ、セイヨウタンポポを除く
	オモダカ	ヒロハオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria platyphylla</i>	
		ナガハオモダカ(ジャイアントサジタリア)	<i>Sagittaria weatherbiana</i>	その他和名: ナガハオモダカ
	トチカガミ	クロモドキ(ラガロシフォン・マヨール)	<i>Lagarosiphon major</i>	
		外来セキショウモ(オオセキショウモ(ジャイアントバリスネリア)、セイヨウセキショウモに酷似した外来種)	<i>Vallisneria gigantea</i> 、 <i>Vallisneria spp.</i>	
	ユリ	ハナニラ(セイヨウアマナ)	<i>Ipheion uniflorum</i>	
		シンテッポウユリ(新鉄砲ユリ、タカサゴユリ)	<i>Lilium × formologi</i>	
	リュウゼツラン	アツバキミガヨラン	<i>Yucca gloriosa</i>	
	アヤメ	ヒメヒオウギズイセン(ヒメヒオオギズイセン、モントブレチア)	<i>Crococsmia x crocosmiiflora</i>	
	イグサ	コゴメイ	<i>Juncus sp.</i>	
	ツククサ	ノハカタカラクサ(トキワツククサ、トラデスカンティア・フルミネンシス)	<i>Tradescantia fluminensis</i>	
	イネ	シロガネヨシ(バンバスグラス)	<i>Cortaderia selloana</i>	
ドクムギ属		<i>Lolium spp.</i>	但し、ネズミムギ、ホソムギ、ポウムチ、ドクムギを除く	
スパルティナ属		<i>Spartina spp.</i>		
ヤシ	シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ)	<i>Archontophoenix cunninghamiana</i>		
コケ植物	ミカツキゼニゴケ	ミカツキゼニゴケ	<i>Lumularia cruciata</i>	
緑藻	イワツタ	変異種のイチイヅタ(キラー海藻)	<i>Caulerpa taxifolia</i>	

### 3.2 外来植物の分布拡大と顕著な影響について

以下に沖縄県内における外来植物の分布拡大の例とその顕著な影響について示す。

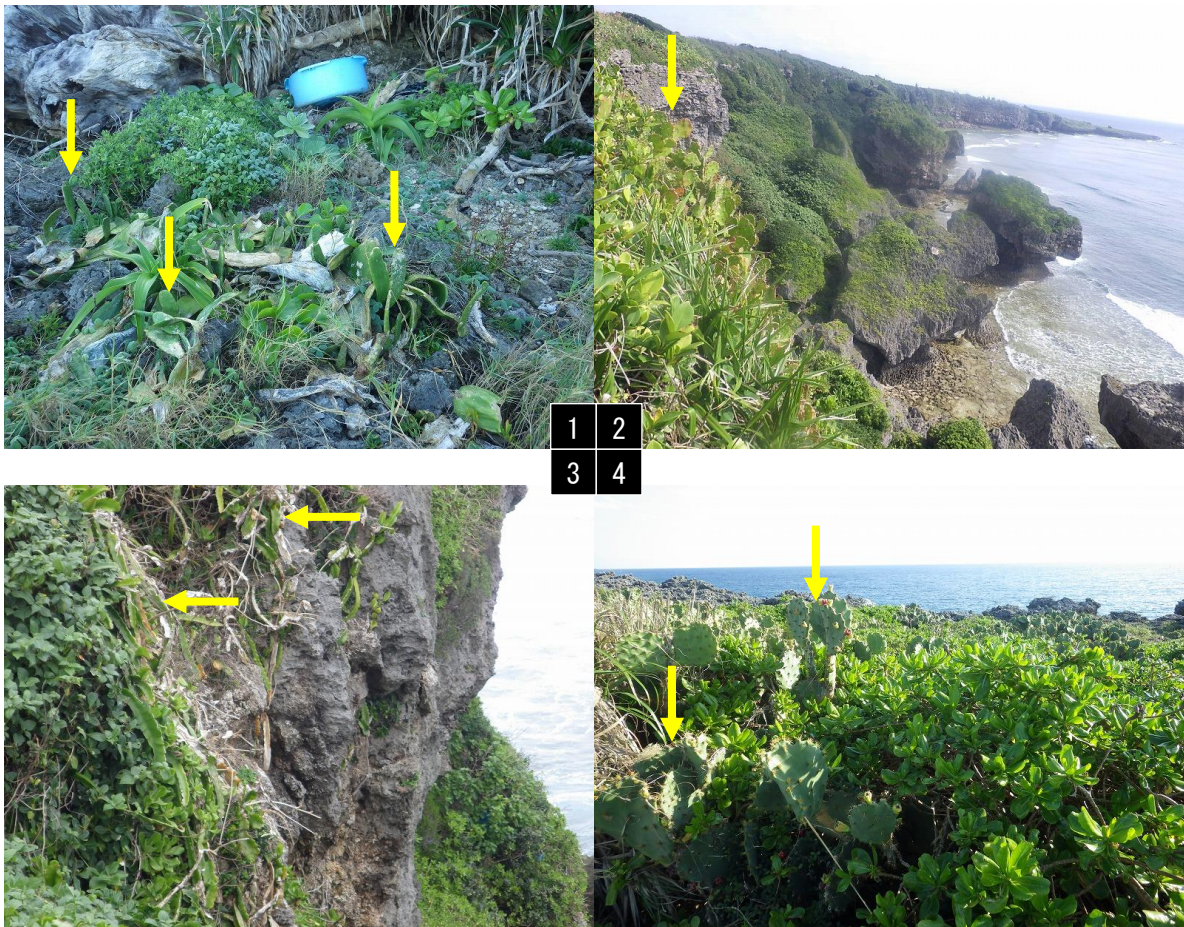
#### ・安易な外来植物の投棄が取り返しのつかない事態に

沖縄本島南部の海岸にドラゴンフルーツの剪定枝が、ビニール袋に入れて捨てられていました。ビニール袋は劣化していて、ボロボロで破れた場所からドラゴンフルーツの剪定枝と思われるものが見えていたのですが、それは、まだ緑色をしていて、土壌があれば活着できそうに見えました。

また、波照間島では、岩礁海岸にウチワサボテンの剪定枝が捨てられていました。既に根や新芽が成長しており、定着初期段階と考えられました。周りにはレッドデータおきなわで準絶滅危惧種とされるミズガンピなどが生育していました。こうした剪定枝などの投棄は、法律に反するだけでなく、取り返しのつかない事態に発展する可能性があります。

実際に、沖縄本島南端の喜屋武岬ではウチワサボテンの仲間が定着し、広範囲に渡って生育しており、良好な海岸景観を著しく阻害しています。また、伊良部島のサバウツガーでは、ドラゴンフルーツが生育し、こちらも景観を阻害すると共に、貴重なイラブナスビ生育地に蔓延っています。

これらの場所で見られる植物も、もともとは安易に投棄されたものから生長したものと考えられます。こうした環境では危険が伴うため、駆除も容易ではありません。



1：海岸に投棄されたと見られるウチワサボテンの仲間。根や新芽を出して定着しようとしている（波照間島 H30. 12）。

2：喜屋武岬に定着し、生育範囲を広げつつあるウチワサボテンの仲間（沖縄島 H30. 01）。

3：貴重種の生育地である崖地に定着したドラゴンフルーツ（サンカクサボテン）（伊良部島サバウツガーH30. 03）。

4：北大東島の海岸線に定着し、在来種と混生しているセンニンサボテン（北大東島 H31. 01）。

• 全てを覆う

外来植物による最もわかりやすい影響の一つとして、生育環境において他種を圧倒して優占し、一面を覆い尽くしながら成長してしまうことが挙げられます。

在来種を被圧して、生態系に影響を与えるだけでなく、耕作地で繁茂することで、作物の成長を阻害したり、除草コストの増加やそれに伴う耕作放棄などの影響が指摘されています。池や水路などで繁殖する水草は、生態系被害以外に、水面を覆うことで水面と空気との接触を妨害し、水中を嫌気化させ、様々な水質の悪化原因となります。また、水の流れを阻害することで洪水の原因ともなります。



1 2  
3 4

- 1：ソテツを覆うアメリカハマグルマ。一度駆除を実施したが、数年でもとの状態に。(与那国島クブラバリ H30. 11)
- 2：放棄された牧草地一面を覆うモミジヒルガオ。見えている部分だけでなく、牧草の間にも広がる。(小浜島 H30. 12)
- 3：水面を覆うホテイアオイ。水面下の環境変化や洪水、水質悪化等の原因ともなる。(沖縄島奥川 H30. 03)
- 4：河原を厚く覆うパラグラス。他の植物はわずかに水際付近に見られるのみ。(石垣島底原川 H30. 12)

### ・景観の阻害

トキワギョリュウやカニンガムモクマオウ等のいわゆるモクマオウ類（以降、モクマオウ類とする）は、生態系への影響と共に、景観への影響も懸念されています。マングローブやサンゴ砂からなる白いビーチなど、いわゆる「沖縄らしさ」を感じられるような場所で旺盛に生育し、良好な景観に影響を与えています。

同様に、サボテン類やアオノリュウゼツランなども、海岸や崖地などの雄大な自然を感じられるビュースポットに生育することが多く、沖縄の景観資源に影響を与えているものと考えられます。



1: マングローブ林内に侵入したトキワギョリュウ(トクサバモクマオウ)。(西表島浦内川 H30.10)

2: 海岸林や更に前縁の砂浜海岸まで生育を広げるトキワギョリュウ。(石垣島 H30.12)

3・4: 景勝地の自然景観に影響を与えるアオノリュウゼツラン。(与那国島ティンダバナ H30.03)

\*: 前述の喜屋武岬のウチワサボテンの仲間やサバウツガのドラゴンフルーツも景観に影響を与えている。

### 3.3 外来植物の利用に係る対応事例等

以下に外来植物の利用に係る対応事例や、その参考となる資料等について示す。

- ・雑草化リスク（侵略性評価）の検討について

資料を収集整理中

Pheloung, P. C., Williams, P. A., Halloy, S. R. .1999. A weed risk assessment model for use as a biosecurity tool evaluating plant. *Journal of Environmental Management* 57 : 239-251.

Tomoko Nishida, T. ,N. Yamashita, M. Asai, S. Kurokawa, T. Enomoto, P.C. Pheloung, R.H. Groves. 2008. Developing a pre-entry weed risk assessment system for use in Japan. *Biological Invasions* 11, 1319-1333.

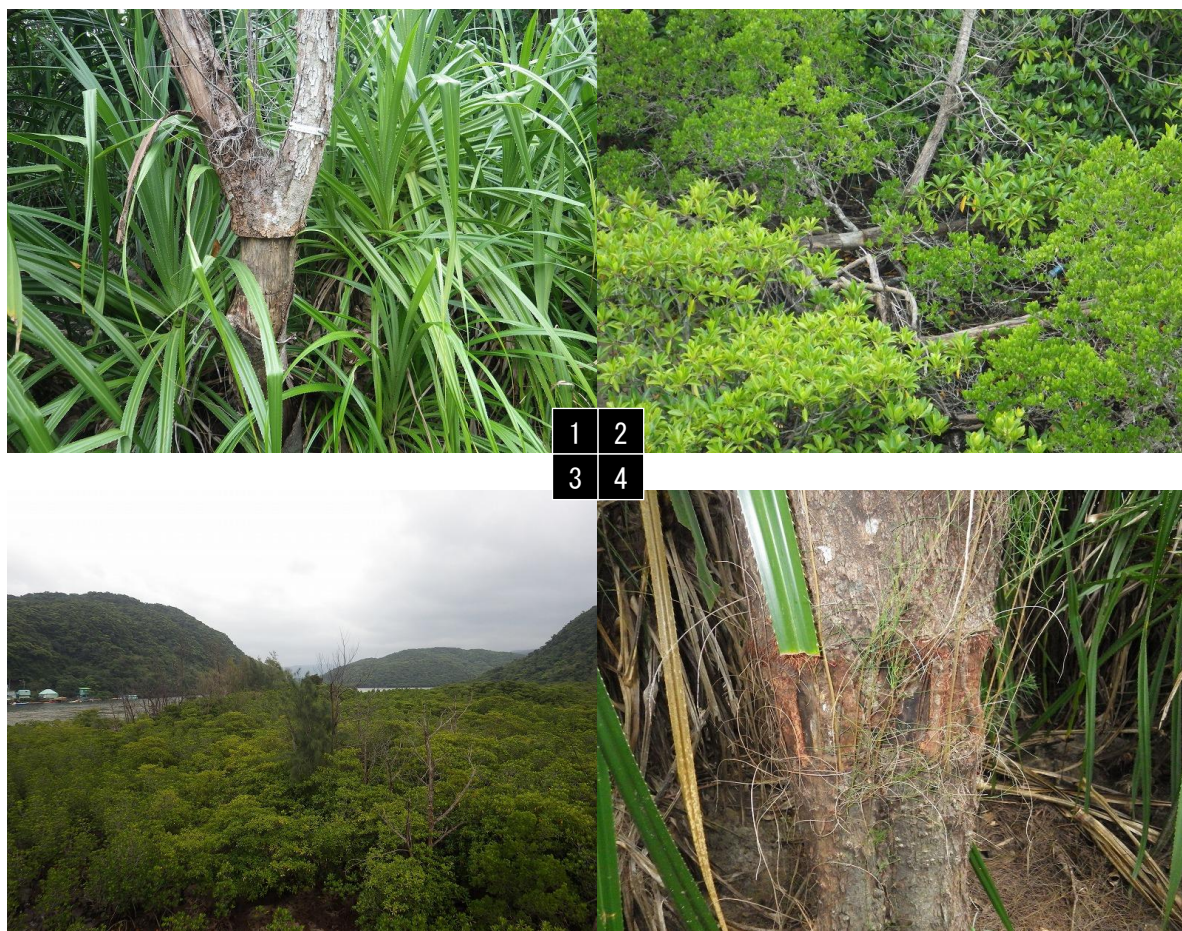


・野外への逸出・分布拡大させないような管理・処分方法の調査・研究について

西表島では、林野庁により、トキワギョリュウ（＝トクサバモクマオウ、以降「モクマオウ」とする）の駆除試験が行われています。

西表島の浦内川河口には、トキワギョリュウがマングローブ林内まで侵入し生育しているところがあります。こうした場所ではマングローブの陸地化による生態系への影響が危惧されています。また、浦内川は西表島でも最も人気のある観光スポットの一つですが、トキワギョリュウによる景観的への影響も懸念される場所です。

浦内川で実施されているのは、ヒノキなどの間伐に用いられる「巻き枯らし」という手法で、幹の樹皮を環状に剥がして、枯死させる方法です。一部を除き実施されたものの多くは枯死が確認されました。



1：モクマオウ巻き枯らしの状況。20cm 程の幅で樹皮が剥がされ、枯死している。（西表島浦内川 H31. 01 以下も同じ）

2：倒伏したモクマオウ。中央に環状剥皮の跡が見られる。

3：枯死したモクマオウ。生残している個体は無処理の表示がされていた個体。

4：剥皮が行われた跡があるものの、生残している個体。剥皮箇所を埋めるように樹皮が生長した跡が見られた。

・野外への逸出・分布拡大させないような管理・処分方法とその普及啓発について

農林水産業で利用されている動植物については、環境省・農林水産省が作成したパンフレットにおいて、種ごとに利用上の留意点が例示されています。例えば、オニウシノケグサ（トールフェスク）では、「種子の逸出防止のために、結実前の刈取り等の適切な実施等に努める。」としています。こうした対応は、牧草であれば栄養価の面からも推奨されるべきものあり、利用者に対しても大きな負担を強いるものではないと考えられます。

また、下記に示した事例は、特に生態系影響を考慮したものではありませんが、雑草化の可能性について示している点では同様な効果が期待されます。こうした資料も、外来植物が雑草化した際の農作物への影響や、コストへの影響など、もともと農業被害等を踏まえた資料となっていることから、より身近で、説得力のある資料であるとともに、外来種の適切な管理・処分方法を啓発するための重要な手法の一つであると考えられます。

**地域全体へのまん延を防ぐには  
種子を作らせないことが重要です**

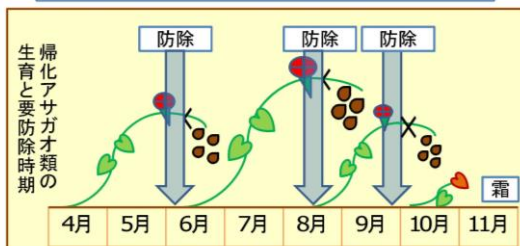
**花が咲いたら直ちに防除！**

畦畔や農道脇などで見かけたら、  
種子を作らせないように  
開花・結実前に防除することが重要です。

ほ場周辺では、刈り取りや  
非選択性茎葉処理除草剤で防除します

**結実前に年に3回は必ず防除！**

- 1回目の防除：6月上旬
- 2回目の防除：8月中旬
- 3回目の防除：9月下旬（茨城県つくば市の例）



※帰化アサガオ類は4月から10月まで長期にわたり発生して開花・結実するので、年1回の防除では不十分です。

引用（独）農業・食品産業技術総合研究機構. 2011. 帰化アサガオ類の地域全体へのまん延を防止するためのほ場周辺管理技術 ver2. p3

**栽培利用のポイント2**

- 種子ができる緑肥は、開花後期または出穂期には鋤込みましょう。

鋤込みが遅れて緑肥の種子ができてしまうと、緑肥が雑草化してしまいます。特にソルゴーは雑草化しやすいため、出穂期には確実に鋤込んでください。

雑草化しやすい緑肥

ソルゴー ヘアリーベッチ  
ヒマワリ セスバニア(田助)  
エンバク

雑草化しにくい緑肥

クロータリヤ 富貴豆  
セスバニア(ロストアラータ)  
ピジョンビー

- ストローチョッパーとロータリーできれいに鋤込みます。

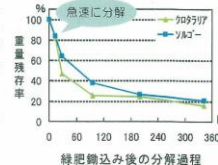
繊維質のクロータリヤやつる性の富貴豆等は、ロータリーだけでは鋤込みが困難です。ストローチョッパーで細断してからロータリーをかけると、均一に鋤込むことができ、分解も速くなります。



ストローチョッパーによる細断

- 鋤込み後2〜3週間で次作を植え付けましょう。

緑肥は、鋤込み直後は急速に分解します。この時期は糖類を分解するピルウム菌が増えており、次作に生育阻害がおこりやすいです。野菜等は、鋤込み後2〜3週間経ってから植え付けてください。サトウキビは植え付け後、発芽まで日数がかかるので、野菜より短い期間で植え付け可能です。



引用：沖縄県農林水産部営農支援課. 2006. おきなわの緑肥沖縄県緑肥栽培利用指針. p3. 沖縄県.

・代替となる植物への順次切り替えについて

モクマオウ類は、海岸の防風林などとして利用されていますが、生態系への影響が懸念されており、小笠原諸島でも駆除が行われています。

座間味村では、生物多様性の保全や観光地としての景観保全等を目的に、モクマオウ・ギンネムの類の駆除を実施しています。

伐採後に在来種であるフクギやテリハボクの苗木を植えたり、事前に植栽した苗木が成長するのを待ってモクマオウの伐採を行うことを計画し、実施しています。

ヒアリング結果等を追記予定

### 3.4 沖縄県内における外来植物の利用現況について

以下に沖縄県内における外来植物の利用現況を示す。

#### (1) 緑化材としての外来種利用状況

緑化材として沖縄県内で利用されている植物の一覧を次の表 3.1 に示す。

緑化材として利用されている植物（在来種及び外来種）については、道路法面などの斜面緑化、海岸林や砂防、治山などの造林、公園や道路などに付帯する緑地の緑化、民間の住宅、工場等の緑化など様々な場面で、高木～低木、草本までの植物が目的に応じて利用されており、およそ 400 種が確認された（表 2.1）。この内、侵略的外来種として「沖縄県対策外来種リスト（「重点対策種」、「対策種」、「重点予防種」「予防種）」に掲載されている種はタチバナアデク、ハナシュクシヤ、モミジヒルガオなど 28 種（一部重複する種も含む）確認された（表 3.2）。

#### (2) 牧草としての外来種利用状況

牧草として沖縄県内で利用されている植物の一覧を次の表 3.3 に示す。

牧草として利用されている植物（在来種及び外来種）については、沖縄県農林水産部畜産課で推奨されている種や農林水産部畜産研究センターで試験されている種など 28 種が確認された（表 2.3）。この内、侵略的外来種として「沖縄県対策外来種リスト（「重点対策種」、「対策種」、「重点予防種」「予防種）」に掲載されている種はギネアキビ、アメリカスズメノヒエなど 4 種（一部重複する種も含む）確認された（表 3.4）。

#### (3) 緑肥としての外来種利用状況

緑肥作物として沖縄県内で利用されている植物の一覧を次の表 3.5 に示す。

緑肥植物として利用されている植物については、沖縄県農林水産部営農支援課や沖縄県農業研究センターで作成された資料などから 13 種を抽出した。この内、侵略的外来種として「沖縄県対策外来種リスト（「重点対策種」、「対策種」、「重点予防種」「予防種）」に掲載されている種はなかった。

#### (4) 農作物等としての外来種利用状況

農作物等として沖縄県内で利用されている植物の一覧を次の表 3.6 に示す。

農作物として利用されている植物（在来種及び外来種）については、沖縄県農林水産部の公表している市場月報、農業関係統計などから抽出し 140 種が確認された（表 3.6）。この内、侵略的外来種として「沖縄県対策外来種リスト（「重点対策種」、「対策種」、「重点予防種」「予防種）」に掲載されている種は、つるむらさき、パッションフルーツなど 6 種（一部重複する種も含む）確認された（表 3.7）。

表 3.1 県内に流通している緑化植物（在来種を含む）一覧

区分	科名	植物種名(流通名)	和名	学名	備考
高木・中木・低木	ヘゴ科	ヘゴ	ヘゴ	<i>Alsophila spinulosa</i>	
		ヒカゲヘゴ	ヒカゲヘゴ	<i>Sphaeropteris lepifera</i>	モリヘゴ
	ソテツ科	ソテツ	ソテツ	<i>Cycas revoluta</i>	
	マキ科	ナギ	ナギ	<i>Nageia nagi</i>	
		イヌマキ	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>	
		ラカンマキ	ラカンマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i> var. <i>maki</i>	
	ナンヨウスギ科	ナンヨウスギ	ナンヨウスギ	<i>Araucaria cunninghamii</i>	
		コバノナンヨウスギ	コバノナンヨウスギ	<i>Araucaria heterophylla</i>	
	スギ科	スギ	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	
	ヒノキ科	カイズカイブキ	ビャクシン	<i>Juniperus chinensis</i>	ビャクシンの栽培品種
		オキナフハイネズ	オキナフハイネズ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>lutchuensis</i>	
	マツ科	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ	<i>Pinus luchuensis</i>	
	モクマオウ科	トキワギョリュウ	トキワギョリュウ	<i>Casuarina equisetifolia</i>	モクマオウ
		モクマオウ	トキワギョリュウ	<i>Casuarina equisetifolia</i>	
		タマモクマオウ	タマモクマオウ	<i>Casuarina nana</i>	
	コショウ科	ヒハツ	コショウ属	<i>Piper</i> spp.	
	ヤナギ科	シダレヤナギ	シダレヤナギ	<i>Salix babylonica</i>	
	ヤマモモ科	ヤマモモ	ヤマモモ	<i>Myrica rubra</i>	
	ブナ科	イタジイ	イタジイ	<i>Castanopsis sieboldii</i>	
		マテバシイ	マテバシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>	
		クヌギ	クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	
		アマミアラカシ	アマミアラカシ	<i>Quercus glauca</i> var. <i>amamiana</i>	
		オキナフウラジロガシ	オキナフウラジロガシ	<i>Quercus miyagii</i>	
		ウバメガシ	ウバメガシ	<i>Quercus phillyraeoides</i>	
	ニレ科	リュウキュウエノキ	クワノハエノキ	<i>Celtis boninensis</i>	
		リュウキュウエノキ	クワノハエノキ	<i>Celtis boninensis</i>	
	クワ科	バラミツ	バラミツ	<i>Artocarpus heterophyllus</i>	
		バンノキ	バンノキ	<i>Artocarpus incisus</i>	
		ベンガルボダイジュ	ベンガルボダイジュ	<i>Ficus benghalensis</i>	
		シロガジュマル	シダレガジュマル	<i>Ficus benjamina</i>	シロガジュマル、ベンジャミナ
		ベンジャミナ	シダレガジュマル	<i>Ficus benjamina</i>	シロガジュマル
		オオバアコウ	オオバアコウ	<i>Ficus caulocarpa</i>	
		インドゴムノキ	インドゴムノキ	<i>Ficus elastica</i>	
		ガジュマル	ガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i>	
		オウゴンガジュマル	オウゴンガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i> cv. <i>Golden Leaves</i>	
		マルバガジュマル	コマルバガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i> var. <i>fuyuensis</i>	
		インドボダイジュ	インドボダイジュ	<i>Ficus religiosa</i>	
		フィカスハワイ	フィカスハワイ	<i>Ficus rubiginosa</i>	
		オオイヌビワ	オオイヌビワ	<i>Ficus septica</i>	
		アコウ	アコウ	<i>Ficus superba</i> var. <i>japonica</i>	
		ハマイヌビワ	ハマイヌビワ	<i>Ficus virgata</i>	
		クワノキ	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	シマグワ
	シマグワ	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>	シマグワ	
	タデ科	ハマベドウ	ハマベドウ	<i>Coccoloba wifera</i>	
	オシロイバナ科	ブーゲンビリア	イカダカズラ	<i>Bougainvillea spectabilis</i>	ブーゲンビリア
	ツツジ科	ツツジ	ツツジ科	<i>Ericaceae</i> spp.	
		ヒラドツツジ	ヒラドツツジ	<i>Rhododendron × pulchrum</i>	
		サツキ	サツキ	<i>Rhododendron indicum</i>	
		ケラマツツジ	ケラマツツジ	<i>Rhododendron scabrum</i>	
	メギ科	ナンテン	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	
	モクレン科	カラタネオガタマ	カラタネオガタマ	<i>Magnolia figo</i>	
		タイサンボク	タイサンボク	<i>Magnolia grandiflora</i>	
		ギョクラン	ギョクラン	<i>Michelia alba</i>	ギンコウボクとも言う
	バンレイシ科	シヤカトウ	バンレイシ	<i>Annona squamosa</i>	
	クスノキ科	クスノキ	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	
		ヤブニツケイ	ヤブニツケイ	<i>Cinnamomum pseudo-pedunculatum</i>	
		アボカド	アボカド	<i>Persea americana</i>	
		タブノキ	タブノキ	<i>Persea thunbergii</i>	タマノキ
		タマノキ	タブノキ	<i>Persea thunbergii</i>	タブノキの別称
	ハスノハギリ科	ハスノハギリ	ハスノハギリ	<i>Hernandia nymphaeaeifolia</i>	
	フウチョウソウ科	ギョボク	ギョボク	<i>Crataeva falcata</i>	
	ユキノシタ科	アジサイ	アジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i> f. <i>normale</i>	
	トベラ科	トベラ	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>	
	マンサク科	イスノキ	イスノキ	<i>Distylium racemosum</i>	
		タイワンフウ	フウ	<i>Liquidambar formosana</i>	
		フウ	フウ	<i>Liquidambar formosana</i>	
		タイワン アメリカフウ	アメリカフウ	<i>Liquidambar styraciflua</i>	
		トキワマンサク	トキワマンサク	<i>Loropetalum chinense</i>	
	バラ科	ビワ	ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	
		カンヒザクラ	ヒカンザクラ	<i>Prunus campanulata</i>	
		ヒカンザクラ	ヒカンザクラ	<i>Prunus campanulata</i>	
		ウメ	ウメ	<i>Prunus mume</i>	
		キモモ	モモ	<i>Prunus persica</i>	
		モモ	モモ	<i>Prunus persica</i>	
		オキナワシャリンバイ	オキナワシャリンバイ	<i>Rhaphiolepis indica</i>	
		シャリンバイ	シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis indica</i> ssp. <i>umbellata</i>	

区分	科名	植物種名(流通名)	和名	学名	備考	
マメ科	ソウシジュ	ソウシジュ		<i>Acacia confusa</i>		
	ソシンカ	モクワンジュ		<i>Bauhinia acuminata</i>		
	ヨウテイボク	ハカマカズラ属		<i>Bauhinia</i> sp.		
	コバソシンカ	コバソシンカ		<i>Bauhinia</i> spp.		
	オウゴチヨウ	オオゴチヨウ		<i>Caesalpinia pulcherrima</i>		
	キャリアンドル	オオベニコウカン		<i>Calliandra haematocephala</i>		
	コバノセンナ	コバノセンナ		<i>Cassia coluteoides</i>		
	ゴールデンシャワー	ナンバンサイカチ		<i>Cassia fistula</i>		
	ナンバンサイカチ	ナンバンサイカチ		<i>Cassia fistula</i>		
	モクセンナ	モクセンナ		<i>Cassia surattensis</i>		
	ホウオウボク	ホウオウボク		<i>Delonix regia</i>		
	デイゴ	デイゴ		<i>Erythrina orientalis</i>		
	リュウキュウハギ	リュウキュウハギ		<i>Lespedeza liukuensis</i>		
	ギンネム	ギンネム		<i>Leucaena leucocephala</i>		
	クロヨナ	クロヨナ		<i>Pongamia pinnata</i>		
	アメリカネム	アメリカネム		<i>Samanea saman</i>		
	イソフジ	イソフジ		<i>Sophora tomentosa</i>		
	カタバミ科	ゴレンシ	ゴレンシ		<i>Averrhoa carambola</i>	
	ミカン科	タンカン	タンカン		<i>Citrus × tankan</i>	
シークワサー		ヒラミレモン		<i>Citrus depressa</i>		
ヒラミレモン		ヒラミレモン		<i>Citrus depressa</i>	シイクワサー	
ボンカン	ボンカン	ボンカン		<i>Citrus reticulata</i>		
	ゲッキツ	ゲッキツ		<i>Murraya paniculata</i>		
センダン科	ジュラン	ジュラン		<i>Aglaia odorata</i>		
	センダン	センダン		<i>Melia azedarach</i>		
キントラノオ科	キントラノオ	キントラノオ		<i>Galphimia glauca</i>		
	ヒラギトラノオ	ヒラギトラノオ		<i>Malpighia coccigera</i>		
	アセローラ	バルバドスチェリー		<i>Malpighia emarginata</i>	Malpighia glabra、Malpighia puniceifoliaはシノニム	
	ピタンガ	ピタンガ		<i>Malpighia puniceifolia</i>	タチバナアデク(Eugenia uniflora)との間に名称の混同が見られる	
トウダイグサ科	ベニヒモノキ	ナガボアミガサノキ		<i>Acalypha hispida</i>		
	アカリファ	アカリファ属		<i>Acalypha</i> spp.		
	ニシキアカリファ	ニシキアカリファ		<i>Acalypha wilkesiana</i> cv. <i>Musaica</i>		
	シマヤマヒハツ	シマヤマヒハツ		<i>Antidesma pentandrum</i>		
	アカギ	アカギ		<i>Bischofia javanica</i>		
	ヨウシュコバンノキ	セイヨウコバンノキ		<i>Breynia nivos</i> cv. <i>Roseopicta</i>	又はBreynia disticha	
	クロトン	クロトンノキ		<i>Codiaeum variegatum</i> var. <i>pictum</i>	ヘンヨウボク	
	ヘンヨウボク	クロトンノキ		<i>Codiaeum variegatum</i> var. <i>pictum</i>		
	ハナキリン	ハナキリン		<i>Euphorbia milii</i> var. <i>splendens</i>		
	ショウジョウボク	ショウジョウボク		<i>Euphorbia pulcherrima</i>	ポインセチア	
	ポインセチア	ショウジョウボク(ポインセチア)		<i>Euphorbia pulcherrima</i>		
	セイシボク	セイシボク		<i>Excoecaria cochinchinensis</i>		
	ゴムノキ	ゴムノキ		<i>Hevea brasiliensis</i>		
	テイキンザクラ	テイキンザクラ		<i>Jatropha hastata</i>		
オオバギ	オオバギ		<i>Macaranga tanarius</i>			
ナンキンハゼ	ナンキンハゼ		<i>Sapium sebiferum</i>			
ツゲ科	カラヒメツゲ	カラヒメツゲ		<i>Buxus bodinieri</i>	クメジマツゲ	
	クメジマツゲ	カラヒメツゲ		<i>Buxus bodinieri</i>		
	オキナワツゲ	オキナワツゲ		<i>Buxus liukuensis</i>	ツゲの園芸品種又はセイヨウツゲ( <i>Buxus sempervirens</i> )	
	アメリカツゲ	アメリカツゲ		<i>Buxus microphylla</i>		
ウルシ科	マンゴー	マンゴウ		<i>Mangifera indica</i>		
	ハゼノキ	ハゼノキ		<i>Rhus succedanea</i>		
モチノキ科	ヒラギモチ	ヤバネヒラギモチ		<i>Ilex cornuta</i>		
	クロガネモチ	クロガネモチ		<i>Ilex rounda</i>		
ニシキギ科	マサキ	マサキ		<i>Euonymus japonicus</i>		
	ハリツルマサキ	ハリツルマサキ		<i>Maytenus diversifolia</i>		
ムクロジ科	タイワンモクゲンジ	タイワンモクゲンジ		<i>Koelreuteria elegans</i> ssp. <i>formosana</i>		
	レイシ	レイシ		<i>Litchi chinensis</i>		
クロウメモドキ科	ヒメクマヤナギ	ヒメクマヤナギ		<i>Berchemia lineata</i>		
	ナツメ	ナツメ		<i>Ziziphus jujuba</i> var. <i>inermis</i>		
ホルトノキ科	ホルトノキ	ホルトノキ		<i>Elaeocarpus sxlvestris</i>		
アオイ科	スイレンボク	スイレンボク		<i>Grewia occidentalis</i>		
	フヨウ	フヨウ		<i>Hibiscus mutabilis</i>		
	ハイビスカス	フツウゲ		<i>Hibiscus rosa-sinensis</i>		
	フツウゲ	フツウゲ		<i>Hibiscus rosa-sinensis</i>		
	ムクゲ	ムクゲ		<i>Hibiscus syriacus</i>		
	オオハマボウ	オオハマボウ		<i>Hibiscus tiliaceus</i>		
	ヒメフヨウ	ダイリンヒメフヨウ		<i>Malvaviscus arboreus</i>		
	サキシマハマボウ	サキシマハマボウ		<i>Thespesia populnea</i>		
バンヤ科	キワタノキ	キワタノキ		<i>Bombax ceiba</i>		
	トックリキワタ	トックリキワタ		<i>Chorisia speciosa</i>		
アオギリ科	アオギリ	アオギリ		<i>Firmiana platanifolia</i>		
	サキシマスオウノキ	サキシマスオウノキ		<i>Heritiera littoralis</i>		

区分	科名	植物種名(流通名)	和名	学名	備考
ツバキ科		ヤブツバキ	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	
		ヒメサザンカ	ヒメサザンカ	<i>Camellia lutchuensis</i>	
		サザンカ	サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>	
		ハマヒサカキ	ハマヒサカキ	<i>Eurya emarginata</i>	
		イジュ	イジュ	<i>Schima wallichii</i> ssp. <i>liukuensis</i>	
		モッコク	モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	
	ツバキ	ツバキ科	Theaceae spp.		
オトギリソウ科		テリハボク	テリハボク(ヤラボ)	<i>Calophyllum inophyllum</i>	
		フクギ	フクギ	<i>Garcinia subelliptica</i>	
イイギリ科		イイギリ	イイギリ	<i>Idesia polycarpa</i>	
トケイソウ科		パッションフルーツ	クダモノケイソウ	<i>Passiflora edulis</i>	
パパイヤ科		パパイヤ	パパイヤ	<i>Carica papaya</i>	
サボテン科		ドラゴンフルーツ	サンカクサボテン	<i>Hylocereus undatus</i>	ハイサボテン
ジンチョウゲ科		アオガンビ	アオガンビ	<i>Wikstroemia retusa</i>	
ミソハギ科		クフェア	メキシコハナヤナギ	<i>Cuphea hyssopifolia</i>	
		メキシコハナヤナギ	メキシコハナヤナギ	<i>Cuphea hyssopifolia</i>	
		オオバナサルスベリ	オオバナサルスベリ	<i>Lagerstroemia flos-reginae</i>	
		サルスベリ	サルスベリ	<i>Lagerstroemia indica</i>	
		シマサルスベリ	シマサルスベリ	<i>Lagerstroemia subcostata</i>	
ザクロ科		ザクロ	ザクロ	<i>Punica granatum</i>	
サガリバナ科		サガリバナ	サガリバナ	<i>Barringtonia racemosa</i>	
シクンシ科		コバテイシ	モモタマナ	<i>Terminalia catappa</i>	
		モモタマナ	モモタマナ	<i>Terminalia catappa</i>	
		コバノコバテイシ	コバノコバテイシ	<i>Terminalia manily</i>	
フトモモ科		マキバブラシノキ	マキバブラシノキ	<i>Callistemon rigidus</i>	
		カリステモン	ブラシノキ	<i>Callistemon speciosus</i>	
		ブラシノキ	ブラシノキ	<i>Callistemon speciosus</i>	
		シダレブラシノキ	シダレハナマキ	<i>Callistemon viminalis</i>	
		グلمシヤーマ	グلمシヤーマ	<i>Eugenia brasiliensis</i>	又はEugenia involucrata
		カユブテ	カユブテ	<i>Melaleuca leucadendra</i>	
		グアバ	バンジロウ	<i>Psidium guajava</i>	
		バンジロウ	バンジロウ	<i>Psidium guajava</i>	
		ストロベリーグアバ	テリハバンジロウ	<i>Psidium littorale</i>	キバンジロウとも言う
		テリハバンジロウ	テリハバンジロウ	<i>Psidium littorale</i>	
		テンニンカ	テンニンカ	<i>Rhodomyrtus tomentosa</i>	
		アデク	アデク	<i>Syzygium buxifolium</i>	
		ユーカリフトモモ	ユーカリフトモモ	<i>Syzygium cumingii</i>	ムラサキフトモモ(Syzygium cumini)とシノニムと混同される
ピタンガ	タチバナアデク	<i>Eugenia uniflora</i>	ピタンガ(Malpighia puniceifolia)との間に名称の混同が見られる		
ノボタン科		ノボタン	ノボタン	<i>Melastoma candidum</i>	
		オオバナノボタン	オオバナノボタン	<i>Miconia magnifica</i>	
ウコギ科		ヤドリフカノキ	ヤドリフカノキ	<i>Schefflera arboricola</i>	
ヤブコウジ科		セイロンマンリョウ	セイロンマンリョウ	<i>Ardisia elliptica</i>	コウトウタチバナ
		モクダチバナ	モクダチバナ	<i>Ardisia sieboldii</i>	
アカテツ科		サボジラ	サボジラ	<i>Manilkara zapota</i>	
		オオバアカテツ	オオバアカテツ	<i>Palaquium formosanum</i>	
		アカテツ	アカテツ	<i>Planchonella obovata</i>	
		カニステル	クダモノタマゴ(タマゴノキ)	<i>Pouteria camechiana</i>	
カキノキ科		ヤエヤマコクタン	リュウキュウコクタン	<i>Diospyros egypt-walkeri</i>	
		リュウキュウコクタン	リュウキュウコクタン	<i>Diospyros egypt-walkeri</i>	
		リュウキュウガキ	リュウキュウガキ	<i>Diospyros maritima</i>	
モクセイ科		シマトネリコ	シマトネリコ	<i>Fraxinus griffithii</i>	
		マツリカ	マツリカ	<i>Jasminum sambac</i>	
		ネズミモチ	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonica</i>	
		トウネズミモチ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	
キョウチクトウ科		アデニューム	アデニューム	<i>Adenium obesum</i>	
		オオバナアリアケカズラ	オオバナアリアケカズラ	<i>Allamanda cathartica</i> cv. <i>Hendersonii</i>	アラマンダ
		カリッサ	カリッサ	<i>Carissa carandas</i>	
		キバナキョウチクトウ	キバナキョウチクトウ	<i>Cascabela thevetica</i>	
		オキナキョウチクトウ	ミフクラギ	<i>Cerbera manghas</i>	
		ミフクラギ	ミフクラギ	<i>Cerbera manghas</i>	
		サンユウカ	サンユウカ	<i>Ervatamia divaricata</i>	
		キョウチクトウ(赤花系)	キョウチクトウ	<i>Nerium indicum</i>	
		キョウチクトウ(白花系)	シロバナキョウチクトウ	<i>Nerium indicum</i> cv. <i>Leucanthum</i>	
		セイヨウキョウチクトウ	セイヨウキョウチクトウ	<i>Nerium oleander</i>	
		インドソケイ	インドソケイ	<i>Plumeria rubra</i> f. <i>acutifolia</i>	
		ブルメリア	インドソケイ	<i>Plumeria rubra</i> f. <i>acutifolia</i>	
		キダチアラマンダ	キダチアラマンダ	不明	
ガガイモ科		マダガスカルジャズミン	アフリカシタキツル	<i>Stephanotis floribunda</i>	
ムラサキ科		モンパノキ	モンパノキ	<i>Argusia argentea</i>	
		フクマンギ	フクマンギ	<i>Carmona retusa</i>	
		マルバチシャノキ	マルバチシャノキ	<i>Ehretia macrophylla</i>	
		オオムラサキシキブ	オオムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	
クマツヅラ科		ヒギリ	ヒギリ	<i>Clerodendrum japonicum</i>	
		タイワンレンギョウ	タイワンレンギョウ	<i>Duranta erecta</i>	
		キバナタイワンレンギョウ	キバナタイワンレンギョウ	<i>Duranta erecta</i> cv. <i>Yellow Leaf</i>	

区分	科名	植物種名(流通名)	和名	学名	備考		
	ナス科	ニオイバンマツリ	ニオイバンマツリ	<i>Brunfelsia australis</i>			
		ヤコウボク	ヤコウカ	<i>Cestrum nocturnum</i>			
	ゴマノハグサ科	ハナチョウジ	ハナチョウジ	<i>Russelia equisetiformis</i>			
	ノウゼンカズラ科	アカイツペイ	アカイツペイ	<i>Handroanthus impetiginosus</i>			
		ジャカラнда	ジャカラнда(シウンボク)	<i>Jacaranda acutifolia</i>			
		シウンボク	オオバジャカラнда	<i>Jacaranda mimosifolia</i>			
		ソケイノウゼン	ソケイノウゼン	<i>Pandorea jasminoidea</i>			
		ニンニクカズラ	ニンニクカズラ	<i>Pseudocalymma alliaceum</i> var. <i>microcalyx</i>			
		カエンボク	カエンボク	<i>Spathodea campanulata</i>			
		イツペイ	イツペイ	<i>Tabebuia avellanedae</i>			
		コガネノウゼン	コガネノウゼン	<i>Tabebuia chrysotricha</i>			
		モモイロノウゼン	モモイロノウゼン	<i>Tabebuia pallida</i>			
		ピンクテコマ	キダチベニノウゼン(ピンクテコマ)	<i>Tabebuia rosea</i>			
	キツネノマゴ科	パキスタキス	ウコンサンゴバナ	<i>Pachystachys lutea</i>			
		ムラサキドリビー	ムラサキドリビー	<i>Pseuderanthemum laxiflorum</i>			
		ヤナギバルイラソウ	ヤナギバルイラソウ	<i>Ruellia brittoniana</i>			
		ツンベルギア	ツンベルギア	<i>Thunbergia affinis</i>			
		コダチヤハズカズラ	コダチヤハズカズラ	<i>Thunbergia erecta</i>			
	ハマジンチョウ科	ハマジンチョウ	ハマジンチョウ	<i>Myoporum bontioides</i>			
	アカネ科	コーヒーノキ	コーヒーノキ(アラビアコーヒーノキ)	<i>Coffea arabica</i>			
		クチナシ	クチナシ	<i>Gardenia jasminoides</i> f. <i>grandiflora</i>			
		サンダンカ	サンダンカ	<i>Ixora chinensis</i>	サンダンカ(スーパー)、サンダンカ(ミニ)		
		コバノサンダンカ	ベニデマリ	<i>Ixora coccinea</i>	ミニサンダンカ		
		ミニサンダンカ	ベニデマリ	<i>Ixora coccinea</i>			
		ジャワサンダンカ	ジャワサンダンカ	<i>Ixora javanica</i>			
		マルバサンダンカ	マルバサンダンカ	<i>Ixora</i> sp.			
		ヤエヤマアオキ	ヤエヤマアオキ	<i>Morinda citrifolia</i>			
		ハクチョウゲ	ハクチョウゲ	<i>Serissa japonica</i>			
		スライズラ科	アベリア	アベリア	<i>Abelia</i> spp.	通常ハナツクハネウツギ( <i>Abelia</i> × <i>grandiflora</i> )を指す	
		サンゴジュ	サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum</i>			
		ゴモジュ	ゴモジュ	<i>Viburnum suspensum</i>			
	クサトベラ科	クサトベラ	クサトベラ	<i>Scaevola taccada</i>	テリハクサトベラ		
		テリハクサトベラ	クサトベラ	<i>Scaevola taccada</i>			
	キク科	モクビャクコウ	モクビャクコウ	<i>Crossostephium chinense</i>			
	タコノキ科	タコノキ	タコノキ	<i>Pandanus boninensis</i>	オガサワラタコノキ		
		アダン	アダン	<i>Pandanus odoratissimus</i>			
		トゲナシアダン	トゲナシアダン	<i>Pandanus odoratissimus</i> f. <i>laevis</i>			
		フチベニタコノキ	ビョウタコノキ	<i>Pandanus utilis</i>			
	ユリ科	ヘメロカリス	ワスレグサ属	<i>Hemerocallis</i> spp.			
		ヤブラン	ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>			
	リュウゼツラン科	ドラセナ	ドラセナ	<i>Dracaena</i> sp.			
	バショウ科	バナナ	バナナ	<i>Musa</i> × <i>sapientum</i>			
	オウギバショウ科	オウギバショウ	オウギバショウ	<i>Ravenala madagascariensis</i>	タビビトノキ		
	—	シマアカテツ	シマアカテツ	不明			
	—	ハッコキカズラ	ハッコキカズラ	不明			
	ヤシ類	ヤシ科	ワシントンヤシ	ワシントンヤシ	<i>Washingtonia filifera</i>	オキナヤシとも言う	
			オキナヤシ	ワシントンヤシ	<i>Washingtonia filifera</i>	ワシントンヤシとも言う	
			マニラヤシ	マニラヤシ(メリルヤシ)	<i>Veitchia merrillii</i>		
			ヤエヤマヤシ	ヤエヤマヤシ	<i>Satakentia lukienensis</i>		
			ダイオウヤシ	ダイオウヤシ	<i>Roystonea regia</i>		
シンノウヤシ			シンノウヤシ	<i>Phoenix roebelenii</i>			
ナツメヤシ			ナツメヤシ	<i>Phoenix dactylifera</i>			
ミツヤシ			ミエミツヤシ	<i>Neodypsis decaryi</i>			
トックリヤシモドキ			トックリヤシモドキ	<i>Mascarena verschaffeltii</i>			
トックリヤシ			トックリヤシ	<i>Mascarena lagenicaulis</i>			
ビロウ			ビロウ	<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i>			
ココヤシ			ココヤシ	<i>Cocos nucifera</i>			
アレカヤシ			ヤマドリヤシ	<i>Chrysalidocarpus lutescens</i>	コガネタケヤシとも呼ばれる		
コガネタケヤシ			ヤマドリヤシ	<i>Chrysalidocarpus lutescens</i>	アレカヤシとも呼ばれる		
ユスラヤシ			ユスラヤシ	<i>Archontophoenix alexandrae</i>			
特殊類			ヘゴ科	モリヘゴ	ヒカゲヘゴ	<i>Sphaeropteris lepifera</i>	
			ヒルギ科	オヒルギ	アカバナヒルギ(オヒルギ)	<i>Bruguiera gymorrhiza</i>	
	メヒルギ	メヒルギ		<i>Kandelia candel</i>			
		ヤエヤマヒルギ	ヤエヤマヒルギ	<i>Rhizophora mucronata</i>			
	タコノキ科	オガサワラタコノキ	タコノキ	<i>Pandanus boninensis</i>			
	リュウゼツラン科	アオノリュウゼツラン	アオノリュウゼツラン	<i>Agave americana</i>			
		フィリリュウゼツラン	リュウゼツラン	<i>Agave americana</i> cv. <i>Marginata</i>			
		リュウゼツラン	リュウゼツラン	<i>Agave americana</i> cv. <i>Marginata</i>			
		サイザルソウ	サイザルソウ	<i>Agave sisalana</i>			
		サイザルヘンブ	サイザルソウ	<i>Agave sisalana</i>	サイザルアサ(ヘンブ)とも言う		
		センネンボク	センネンボク	<i>Cordylone fruticososa</i>			
		トックリラン	トックリラン	<i>Nolina stricta</i>			
		モーリジャスヘンブ	マオラン属	<i>Phormium</i> sp.			
	ヒガンバナ科	ユッカ	ユッカ	<i>Beschorneria yuccoides</i>			



区分	科名	植物種名(流通名)	和名	学名	備考	
	オウギバショウ科	タビビトノキ	オウギバショウ	<i>Ravenala madagascariensis</i>		
		タビビトノキモドキ	シロゴクラクチョウカ	<i>Strelitzia alba</i>		
草本類	シノブ科	タマシダ	タマシダ	<i>Nephrolepis auriculata</i>		
	チャセンシダ科	オオタニワタリ	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>		
	ヒユ科	サシバモヨウビユ	サシバモヨウビユ	<i>Alternanthera sp.</i>	アキランサス、モヨウビユ	
	スベリヒユ科	ポルツラカリア	ポーチュラカリア属	<i>Portulacaria sp.</i>		
	ミノハギ科	タバコソウ	タバコソウ	<i>Cuphea ignea</i>		
	アカバナ科	ヒルザキツキミソウ	ヒルザキツキミソウ	<i>Oenothera speciosa</i>		
	キョウチクトウ科	ニチニチソウ(在来種)	ニチニチソウ	<i>Catharanthus roseus</i>		
	ヒルガオ科	アメリカンブルー	アメリカンブルー	<i>Evolvulus pilosus</i>		
	クマツヅラ科	ランタナ	ランタナ(シチヘンゲ)	<i>Lantana camara var. aculeata</i>		
	キク科	シマアザミ	シマアザミ	<i>Cirsium brevicaulis</i>		
		ホソバワダン	ホソバワダン	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>		
		イソギク	イソギク	<i>Dendranthema pacificum</i>		
	ツユクサ科	ムラサキオモト	ムラサキオモト	<i>Rhoeo spathacea</i>		
		ワイセイムラサキオモト	ムラサキオモト	<i>Rhoeo spathacea</i>		
		ムラサキオオツユクサ	ムラサキオオツユクサ	<i>Setcreasea purpurea</i>		
		ハカタカラクサ	ハカタカラクサ	<i>Zebrina pendula</i>		
	ユリ科	アロエ	アロエ属	<i>aloe spp.</i>		
		オリヅルラン	オリヅルラン	<i>Chlorophytum comosum</i>		
		ノカンゾウ	ノカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva var. longituba</i>		
		アキノワスレグサ	トキワカンゾウ	<i>Hemerocallis fulva var. sempervirens</i>		
		フイリヤブラン	フクリンヤブラン	<i>Liriope muscari cv. Variegata</i>		
	リュウゼツラン科	トラノオ(サンセベリア)	アツバチトセラン	<i>Sansevieria trifasciata</i>		
	ヒガンバナ科	ハマオモト(ハマユウ)	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum var. japonicum</i>		
		オオゴンハマユウ	ハマオモト属	<i>Crinum sp.</i>		
		ヒメノカリス	ヒメノカリス	<i>Hymenocallis calathiana</i>		
		スイセン	スイセン	<i>Narcissus tazetta</i>		
	アヤメ科	ハナショウブ	ハナショウブ	<i>Iris ensata cv. Hortensis</i>		
		シャガ	シャガ	<i>Iris japonica</i>		
		イチハツ	イチハツ	<i>Iris tectorum</i>		
	オウギバショウ科	ゴクラクチョウカ	ゴクラクチョウカ	<i>Strelitzia reginae</i>		
	ショウガ科	ゲトウ	ゲトウ	<i>Alpinia zerumbet</i>		
		シュクシャ	ハナシュクシャ	<i>Hedychium coronarium</i>	ジンジャーとも言う	
ジンジャー		ハナシュクシャ	<i>Hedychium coronarium</i>	シュクシャとも言う		
ハナシュクシャ		ハナシュクシャ	<i>Hedychium coronarium</i>			
ラン科	シラン	シラン	<i>Bletilla striata</i>			
地被類	クワ科	フィッカステイコア	フィッカステイコワ	<i>Ficus tikoua</i>		
	ヒユ科	サシバモヨウビユウ	サシバモヨウビユ	<i>Alternanthera ficoidea var. bettzickiana</i>	アキランサス、モヨウビユ	
	バラ科	テンノウメ	テンノウメ	<i>Osteomeles anthyllidifolia f. subrotunda</i>		
	マメ科	シロクローバー(種子)	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>		
		シロクローバー(種子)コモン	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>		
	ミノハギ科	ミズガンビ	ミズガンビ	<i>Pemphis acidula</i>		
	イソマツ科	イソマツ	イソマツ	<i>Limonium wrightii f. arbusculum</i>		
	ヒルガオ科	グンバイヒルガオ	グンバイヒルガオ	<i>Ipomoea pes-caprae ssp. brasiliensis</i>		
	クマツヅラ科	ハマゴウ	ハマゴウ	<i>Vitex rotundifolia</i>		
	シソ科	ヒメキランソウ	ヒメキランソウ	<i>Ajuga pygmaea</i>		
		ヤエヤマズコウジュ	ヤエヤマズコウジュ	<i>Suzukia luchuensis</i>		
	キツネノマゴ科	ケブカルイラソウ	ケブカルイラソウ	<i>Ruellia squarrosa</i>		
	キク科	アメリカハマグルマ	アメリカハマグルマ	<i>Wedelia trilobata</i>		
	イネ科	コロニアルベントグラス(種子)ハイランド	コロニアルベントグラス	<i>Agrostis capillaris</i>		
		レッドトップ(種子)	コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>		
		ベントグラス(種子)	ハイコヌカグサ	<i>Agrostis stolonifera</i>	クリーピングベントグラス	
		パミュダグラス(種子)	ギョウキシバ	<i>Cynodon dactylon</i>		
		ヴァイアターフ	ギョウキシバ属	<i>Cynodon dactylon</i>	パミュダグラスの改良品種	
		フェニックスターフソッド	ギョウキシバ属	<i>Cynodon dactylon</i>	パミュダグラスの改良品種	
		ティフトン	ティフトン	<i>Cynodon 属雑種</i>		
		ウィーピンググラス(種子)	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		
		トールフェスク(種子)	オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i>		
		クレーピングレッドフェスク(種子)	オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>		
		イタリアンライグラス(種子)	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>		
		ペレニアルライグラス(種子)	ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>		
		チモシー(種子)	オオアワガエリ	<i>Phleum pratense</i>		
		ケンタッキーブルーグラス(種子)	ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>		
		イヌシバ	イヌシバ	<i>Stenotaphrum secundatum</i>		
		セントオーガステングラス(張芝)	イヌシバ	<i>Stenotaphrum secundatum</i>		
		ノシバ	シバ	<i>Zoysia japonica</i>		
		野芝(半土付き)	シバ	<i>Zoysia japonica</i>		
		キリシマターフ	シバ属	<i>Zoysia japonica</i>	シバ(ノシバ)の改良品種	
		コウライシバ	コウライシバ	<i>Zoysia matrella var. pacifica</i>		
		ヒメコウライシバ	コウライシバ	<i>Zoysia matrella var. pacifica</i>		
		高麗芝(半土付き)	コウライシバ	<i>Zoysia matrella var. pacifica</i>		
		ウィンターフィールド	コウライシバ属	<i>Zoysia matrella var. pacifica</i>	コウライシバの改良品種	
		ユリ科	リュウノヒゲ	ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>	
		—	グーパー	グーパー	不明	

区分	科名	植物種名(流通名)	和名	学名	備考
つる類	コショウ科	ヒハツモドキ	ヒハツモドキ	<i>Piper retrofractum</i>	
	クワ科	オオイタビ(ヒメイタビを含む)	オオイタビ	<i>Ficus pumila</i>	
	タデ科	ニトベカズラ	ニトベカズラ	<i>Antigonon leptopus</i>	
	ザクロソウ科	ツルナ	ツルナ	<i>Tetragonia tetragonioides</i>	
	オシロイバナ科	イカダカズラ	イカダカズラ	<i>Bougainvillea spectabilis</i>	ブーゲンビリア
	マメ科	ハマササゲ	ハマササゲ	<i>Vigna marina</i>	
	キントラノオ科	コウシュンカズラ	コウシュンカズラ	<i>Tristellateia australasiae</i>	
	ブドウ科	シッサス	シッサス	<i>Cissus gongylodes</i>	
		アマミヅタ	アマミヅタ	<i>Parthenocissus heterophylla</i>	
		ナツズタ	ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	
	トケイソウ科	トケイソウ(クダモノトケイソウ含む)	トケイソウ属	<i>Passiflora</i> sp.	
	シクンシ科	インドシクンシ	シクンシ	<i>Quisqualis indica</i>	
	ウコギ科	ヘデラ・カナリエンシス	カナリーキヅタ	<i>Hedera canariensis</i>	
		ヘデラ・ヘリックス	セイヨウキヅタ	<i>Hedera helix</i>	
	イソマツ科	ルリマツリ	ルリマツリ	<i>Plumbago auriculata</i>	
	キョウチクトウ科	オオバナアリアケカズラ(アラマンダ)	オオバナアリアケカズラ	<i>Allamanda cathartica</i> cv. <i>Hendersonii</i>	
		ホウライカガミ	ホウライカガミ	<i>Parsonia laevigata</i>	
		テイカカズラ	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>	
	ガガイモ科	ツルモウリンカ	ツルモウリンカ	<i>Tylophora tanakae</i>	
	ヒルガオ科	ウラボシオオバアサガオ	ギンヨウアサガオ	<i>Argyrea nervosa</i>	
		モミジハルガオ	モミジハルガオ	<i>Ipomoea cairica</i>	
		バラアサガオ(ウッドローズ)	バラアサガオ	<i>Merremia tuberosa</i>	
	クマツヅラ科	ゲンベイクズラ	ゲンベイクズラ	<i>Clerodendrum thomsonae</i>	
		チャイニーズハット	カラカサバナ(チャイニーズハット)	<i>Holmskioldia sanguinea</i>	
	ノウゼンカズラ科	カエンカズラ	カエンカズラ	<i>Pyrostegia venusta</i>	
	キツネノマゴ科	ベンガルヤハズカズラ	ベンガルヤハズカズラ	<i>Thunbergia grandiflora</i>	
	アカネ科	シラタマカズラ	シラタマカズラ	<i>Psychotria serpens</i>	
	スイカズラ科	ハマニンドウ	ハマニンドウ	<i>Lonicera affinis</i>	
	キク科	メキシコサワギク	メキシコタイキンギク	<i>Senecio confusus</i>	
	サトイモ科	オウゴンカズラ	オウゴンカズラ	<i>Rhaphidophora aurea</i>	
		ダイミョウチク	トウチク	<i>Sinobambusa tootsik</i>	
竹類	イネ科	ホウライチク	ホウライチク	<i>Bambusa glaucescens</i>	
		リョクチク	リョクチク	<i>Bambusa oldhamii</i>	
		マチク	マチク	<i>Dendrocalamus latiflorus</i>	
		ホテイチク	ホテイチク	<i>Phyllostachys aurea</i>	
		リュウキュウチク	リュウキュウチク	<i>Pleioblastus linearis</i>	
		ダイミョウチク	トウチク	<i>Sinobambusa tootsik</i>	
球根	ヒガンバナ科	アマリリス	アマリリス	<i>Hippeastrum × hybridum</i>	
	アヤメ科	グラジオラス	トウショウブ	<i>Gladiolus × gandavensis</i>	
	ヒガンバナ科	ショウキズイセン	ショウキズイセン	<i>Lycoris traubii</i>	
	ユリ科	テッポウユリ	テッポウユリ	<i>Lilium longiflorum</i>	
	ダンドク科	ハナカンナ	ハナカンナ	<i>Canna × generalis</i>	
		カンナ	カンナ属	<i>Canna</i> spp.	
	ヒガンバナ科	ヒガンバナ	ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>	

参考文献

緑化に利用されていると考えられる植物名については以下より抜粋した。

- 1) 沖縄県緑化種苗協同組合HP(最終閲覧日:2018年6月15日) [http://okiryoku.org/price\\_frame.html](http://okiryoku.org/price_frame.html)
- 2) 財団法人都市緑化技術開発機構編. 2011. 沖縄地域における屋上・壁面緑化の手引き(案)-海洋博公園が開発した技術の活用-. 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所.
- 3) 一般財団法人経済調査会. 2018. 沖縄樹木. 月刊 積算資料 3月号. p.566.
- 4) 一般財団法人建設物価調査会. 2018. 沖縄地区樹木. 建設物価 3月号. p.412.
- 5) 沖縄県土木建築部. 2017. 造園材. 平成29年度実施設計単価表. p133-138.

植物種名(流通名)と学名の照合は主に以下に従った。

- 1) 初島住彦・天野鉄夫.1994.増補訂正 琉球植物目録.沖縄生物学会.pp393
- 2) (財) 海洋博覧会記念公園管理財団編.1997.沖縄の都市緑化植物図鑑.pp399

学名及び和名は基本的に初島・天野(1994)に従い、その他不明なものについては(財) 海洋博覧会記念公園管理財団編(1997)を参考とした。

商品名・流通名と学名との対応については、インターネット上の情報も参考として利用した。

表 3.2 県内に流通している緑化植物の内「沖縄県対策外来種リスト」に掲載されている種

種別	科名	植物種名(流通名)	和名	学名	備考	区分	
高木・中木・低木	モクマオウ科	トキワギョリュウ	トキワギョリュウ	<i>Casuarina equisetifolia</i>	種を区別せずモクマオウとも言う	対策種	
		モクマオウ	トキワギョリュウ	<i>Casuarina equisetifolia</i>	複数の種が含まれている可能性がある	対策種	
	クワ科	パンノキ	パンノキ	<i>Artocarpus incisus</i>			対策種
		ソウシジュ	ソウシジュ	<i>Acacia confusa</i>			対策種
	マメ科	ギンネム	ギンネム	<i>Leucaena leucocephala</i>			対策種
		アセローラ	バルバドスチエリー	<i>Malpighia emarginata</i>	Malpighia glabra, Malpighia punicifoliaはシノニム		対策種
	アオイ科	フヨウ	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>			対策種
	サボテン科	ドラゴンフルーツ	サンカクサボテン(ハイサボテン)	<i>Hylocereus undatus</i>			対策種
	フトモモ科	ストロベリーグテバ	テリハパンジロウ	<i>Psidium littorale</i>		キパンジロウとも言う	対策種
		テリハパンジロウ	テリハパンジロウ	<i>Psidium littorale</i>			対策種
		ユーカリフトモモ	ユーカリフトモモ	<i>Syzygium cumingii</i>		ムラサキフトモモとも言う	予防種
		ビタンガ	タチバナアデク	<i>Eugenia uniflora</i>	ビタンガ(Malpighia punicifolia)との間に名数の混乱が見られる		対策種
	キツネノマゴ科	ヤナギバルイラソウ	ヤナギバルイラソウ	<i>Ruellia brittoniana</i>			対策種
	ヤブコウジ科	セイロンマンリョウ	セイロンマンリョウ	<i>Ardisia elliptica</i>			対策種
	モクセイ科	トウネズミモチ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>			予防種
	特殊類	リュウゼツラン科	アオノリュウゼツラン	アオノリュウゼツラン	<i>Agave americana</i>		対策種
フイリリュウゼツラン			リュウゼツラン	<i>Agave americana</i> cv. <i>Marginata</i>	アオノリュウゼツラン(リュウゼツラン)として	対策種	
草本類	クマツヅラ科	ランタナ	ランタナ(シチヘンゲ)	<i>Lantana camara</i> var. <i>aculeata</i>		対策種	
		リュウゼツラン科	トラノオ(サンセベリア)	アツバチセラ	<i>Sansevieria trifasciata</i>		対策種
	ショウガ科	シュクシヤ	ハナシュクシヤ	<i>Hedychium coronarium</i>		ジンジャーとも言う	対策種
		ジンジャー	ハナシュクシヤ	<i>Hedychium coronarium</i>		シュクシヤ、バタフライジンジャーとも言う	対策種
		ハナシュクシヤ	ハナシュクシヤ	<i>Hedychium coronarium</i>			対策種
地被類	キク科	アメリカハマグルマ	アメリカハマグルマ	<i>Wedelia trilobata</i>		重点対策種	
つる類	トケイソウ科	トケイソウ(クダモノトケイソウ含む)	トケイソウ属	<i>Passiflora</i> sp.	クサトケイソウ、ヒメトケイソウ、ミスミトケイソウが対策種	対策種	
		ヒルガオ科	モミジヒルガオ	モミジヒルガオ	<i>Ipomoea cairica</i>		対策種
	サトイモ科	オウゴンカズラ	オウゴンカズラ	<i>Rhaphidophora aurea</i>		対策種	
	キツネノマゴ科	ベンガルヤハズカズラ	ベンガルヤハズカズラ	<i>Thunbergia grandiflora</i>		対策種	
竹類	イネ科	ホテイイチク	ホテイイチク	<i>Phyllostachys aurea</i>		対策種	

参考文献

緑化に利用されていると考えられる植物名については以下より抜粋した。

- 1) 沖縄県緑化種苗協同組合HP(最終閲覧日:2018年6月15日) [http://okiryoku.org/price\\_frame.html](http://okiryoku.org/price_frame.html)
- 2) 財団法人都市緑化技術開発機構編, 2011. 沖縄地域における屋上・壁面緑化の手引き(案)-海洋博公園が開発した技術の活用-, 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所.
- 3) 一般財団法人経済調査会, 2018. 沖縄樹木. 月刊 積算資料 3月号. p.566.
- 4) 一般財団法人建設物価調査会, 2018. 沖縄地区樹木. 建設物価 3月号. p412.

植物種名(流通名)と学名の照合は主に以下に従った。

- 1) 初島住彦・天野鉄夫, 1994. 増補訂正 琉球植物目録. 沖縄生物学会. pp393
- 2) (財) 海洋博覧会記念公園管理財団編, 1997. 沖縄の都市緑化植物図鑑. pp399

学名及び和名は基本的に初島・天野(1994)に従い、その他不明なものについては(財) 海洋博覧会記念公園管理財団編(1997)を参考とした。商品名・流通名と学名との対応については、インターネット上の情報も参考として利用した。

表 3.3 県内で利用されている牧草植物一覧

科名	草種名	和名	学名	品種名	学名 文献	県奨励 品種	備考
イネ科	ローズグラス	アフリカヒゲシバ	<i>Chloris gayana</i>	カタンボラ、カロイド、カリーデ	1)	○	
	ギニアグラス	ギネアキビ	<i>Panicum maximum</i>	ガットン、バイカジ、うーまく、ナツユタカ	1)	○	
	ジャイアントスターグラス	—	<i>Cynodon dactylon</i>	—	2)	○	
	ジャイアントスターグラス	アフリカギョウギシバ	<i>Cynodon nlemfuensis</i>	—	4)	○	アフリカギョウギシバを <i>C. transvaalensis</i> とする記述もある
	ディジットグラス	—	<i>Digitaria eriantha</i>	プレミア、トランスバーラ	1)	○	バンゴラグラスとも草種名表示される
	シグナルグラス	—	<i>Brachiaria birizantha</i>	MG5	1)4)		ブラキアリアグラスとも草種名表示される
	スリナムグラス	—	<i>Brachiaria decumbens</i>	バシリスク	1)4)		ブラキアリアグラスとも草種名表示される
	ブラキアリアグラス	—	<i>Brachiaria ruziziensis</i>	ルジグラス	1)	○	
	ハラグラス	ハラグラス	<i>Brachiaria mutica</i>	—	2)	○	
	ネピアグラス	ネピアグラス	<i>Pennisetum purpureum</i>	台畜草2号、台湾7734、Wruk wona	4)	○	
	ソルガム	—	<i>Sorghum bicolor</i>	P956、スズホ、GSC82009	2)	○	
	ケーングラス	(サトウキビ)	<i>Saccharum officinarum</i>	—	5)	○	
	イタリアンライグラス	ネスミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>	シワスアオバ、さちあおば、きららワセ	3)	○	イタリアングラスとも草種名表示される
	えん麦	エンバク	<i>Avena sativa</i>	とちゆたか	2)	○	
	フツェルグラス	ヒゲクリノイガ	<i>Cenchrus ciliaris</i>	ビオーエラ、USA	1)		
	セタリア	アフリカキンエノコロ	<i>Setaria sphacelata</i>	カズングラ	4)6)		
	セタリア	—	<i>Setaria incrassata</i>	バーブルビジョン	12)		
	パヒアグラス	アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i>	ナンゴク	4)		
	ダリスグラス	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	—	12)		
	マメ科	アルファルファ	ムラサキウマゴヤシ	<i>Medicago sativa</i>	ツユワカバ、Florida77	3)	○
グライシン		—	<i>Neonotonia wightii</i>	チナール	12)	○	

参考文献

牧草・飼料作物に利用されていると考えられる植物名については以下より抜粋したが、一部はヒアリング結果を踏まえ除外した。

- 1) 沖縄県農林水産部HP. 牧草・飼料作物の奨励品種について(最終閲覧日:2018年6月15日) <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/chikusan/shiroyo/syoreihinsyu.html>
- 2) 沖縄県農林水産部HP. 沖縄県における導入暖地型牧草の適応品種選定(最終閲覧日:2018年6月15日) <http://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/kagaku/shinko/hyouka/documents/18tikusangou.pdf>
- 3) 沖縄県畜産試験場. 2004. 写真で見える暖地型牧草 I. 草地・飼料ニュースレター-Okinawa Green Grass, vol.1.
- 4) 幸喜香織・稲福政史・森山高広・川本康博. 2013. 海外から導入した暖地型牧草の優良品種選定試験(1)生育特性および収量性の評価. 沖縄県畜産研究センター研究報告, 51, p.49-56.

植物種名(流通名)と学名の照合は主に以下に従った。

- 1) 幸喜香織・稲福政史・森山高広・川本康博. 2013. 海外から導入した暖地型牧草の優良品種選定試験(1)生育特性および収量性の評価. 沖縄県畜産研究センター研究報告, 51, p.49-56.
- 2) 農研機構HP <http://www.naro.affrc.go.jp/org/nilgs/diseases/contents/plant.html>
- 3) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七編著. 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会. pp.365
- 4) 沖縄県畜産試験場. 2004. 写真で見える暖地型牧草 I. 草地・飼料ニュースレター-Okinawa Green Grass, vol.1.
- 5) 境垣内岳雄. 2015. ケーングラス栽培マニュアル-沖縄県版-. 九州沖縄農業研究センター.
- 6) 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹. 2010. 日本帰化植物写真図鑑 第2巻. 全国農村教育協会. pp.249
- 7) 宮丸直子. 2006. 沖縄県緑肥栽培利用指針. 沖縄県農林水産部.
- 8) 宮丸直子. 2017. 沖縄県の緑肥. 沖縄県農業研究センター.
- 9) 初島住彦, 天野鉄夫. 増補訂正 琉球植物目録. 沖縄生物学会, 1994.
- 10) 大門弘幸. 2017. 緑肥作物の栽培と利用. 牧草と園芸, 65(3)
- 11) 中野寛. 1994. 西南暖地における緑肥作物. 牧草と園芸, 42(3)
- 12) 望月智代・守川信夫・長利真幸・富真嗣平・真境名元次. 2006. 導入暖地型牧草の適応品種選定試験(2001~2005年)(1). 試験研究報告, 43, p.30-37

表 3.4 県内で利用されている牧草の内「沖縄県対策外来種リスト」に掲載されている種

科名	草種名	和名	学名	品種名	区分
イネ科	ギニアグラス	ギネアキビ	<i>Panicum maximum</i>	ガットン、バイカジ、うーまく、ナツユタカ	対策種
	ネピアグラス	ネピアグラス	<i>Pennisetum purpureum</i>	台畜草2号、台湾7734、Wruk wona	対策種
	パヒアグラス	アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i>	ナンゴク	対策種
	ダリスグラス	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	—	対策種

表 3.5 県内で利用されている緑肥植物一覧

科名	草種名	和名	学名	品種名	学名文献	備考
イネ科	ソルゴー	ー	<i>Sorghum bicolor</i>		1)	ソルガムとも草種名表示される。雑草化しやすい
	エンバク	エンバク	<i>Avena sativa</i>		1)	
マメ科	クロタリア	コヤシタヌキマメ	<i>Crotalaria juncea</i>		1)	雑草化しにくい
	ピジョンピー	キマメ	<i>Cajanus cajan</i>		1)	雑草化しにくい
	富貴豆	ハッシュウマメ	<i>Mucuna pruriens</i>		1)3)	雑草化しにくい
	セスバニア	キダチデンセイ	<i>Sesbania sesban</i>	田青	1)3)	雑草化しにくい
	セスバニア	ー	<i>Sesbania rostrata</i>	ロストラータ	4)	
	セスバニア	ー	<i>Sesbania cannabina</i>	カンナビア	4)	
	下大豆	ダイズ	<i>Glycine max</i>		2)5)	
	緑豆	ヤエナリ	<i>Vigna radiata</i>		3)	
	ヘアリーベッチ	ヘアリーベッチ	<i>Vicia villosa</i>		2)3)	雑草化しやすい
キク科	ヒマワリ	ヒマワリ	<i>Helianthus annuus</i>		1)	雑草化しやすい
タデ科	蕎麦	ソバ	<i>Fagopyrum esculentum</i>		3)	<i>Fagopyrum cymosum</i>

参考文献

緑肥植物として利用されていると考えられる植物名については以下より抜粋した。

- 1) 宮丸直子.2006.沖縄県緑肥栽培利用指針.沖縄県農林水産部.
- 2) 宮丸直子.2017.沖縄県の緑肥.沖縄県農業研究センター.
- 3) 初島住彦, 天野鉄夫: 増補訂正 琉球植物目録, 沖縄生物学会,1994.
- 4) 大門弘幸.2017.緑肥作物の栽培と利用.牧草と園芸, 65(3)
- 5) 中野寛.1994.西南暖地における緑肥作物.牧草と園芸, 42(3)
- 6) 望月智代・守川信夫・長利真幸・當眞嗣平・真境名元次.2006.導入暖地型牧草の適応品種選定試験(2001～2005年)(1).試験研究報告, 43.p30-37

※県内で利用されている緑肥植物の内「沖縄県対策外来種リスト」に掲載されている種はない

表 3.6 県内で利用されている農作物等一覧

区分	科名	作物名	学名	備考
その他	イネ科	さとうきび	<i>Saccharum officinarum</i>	補助事業H28
根菜類	アブラナ科	だいこん	<i>Raphanus sativus var. hortensis</i>	
	アブラナ科	かぶ	<i>Brassica rapa</i>	
	セリ科	にんじん	<i>Daucus carota var. sativus</i>	補助事業H28
	キク科	ごぼう	<i>Arctium lappa</i>	
	ハス科	れんこん	<i>Nelumbo nucifera</i>	
	サトイモ科	さといも	<i>Colocasia esculenta</i>	
	ヤマノイモ科	やまのいも	<i>Dioscorea japonica</i>	
	ショウガ科	うこん	<i>Curcuma longa</i>	
	セリ科	島にんじん	<i>Daucus carota var. sativus</i>	補助事業H28
	アブラナ科	島だいこん	<i>Raphanus sativus var. hortensis</i>	補助事業H28
ヒガンバナ科	島らっきょう	<i>Allium chinense</i>	補助事業H28	
葉茎菜類	アブラナ科	はくさい	<i>Brassica pekinensis</i>	
	アブラナ科	さんとうさい	<i>Brassica rapa subv. dentata</i>	
	アブラナ科	からしな(シマナー)	<i>Brassica juncea</i>	
	アブラナ科	キャベツ	<i>Brassica oleracea var. capitata</i>	
	アブラナ科	グリーンボール	<i>Brassica oleracea var. capitata</i>	
	ヒユ科	ほうれんそう	<i>Spinacia oleracea</i>	
	ヒガンバナ科	ねぎ	<i>Allium fistulosum</i>	
	ヒガンバナ科	たまねぎ	<i>Allium cepa</i>	
	アブラナ科	こまつな	<i>Brassica perviridis</i>	
	セリ科	みつば	<i>Cryptotaenia canadensis</i>	
	キク科	しゅんぎく	<i>Chrysanthemum coronarium</i>	
	ヒガンバナ科	にら	<i>Allium tuberosum</i>	
	キジカクシ科	アスパラガス	<i>Asparagus officinalis var. altilis</i>	
	果菜類	ナス科	なす	<i>Solanum melongena</i>
ナス科		トマト	<i>Lycopersicon esculentum</i>	補助事業H28
ナス科		ミニトマト	<i>Lycopersicon esculentum</i>	補助事業H28
ウリ科		きゅうり	<i>Cucumis sativus var. tuberculatus</i>	補助事業H28
ウリ科		かぼちゃ	<i>Cucurbita maxima</i>	補助事業H28
ナス科		ピーマン	<i>Capsicum annuum cv. Glossum</i>	補助事業H28
ナス科		ししとう	<i>Capsicum annuum cv. Glossum</i>	
マメ科		さやえんどう	<i>Psium sativum var. macrocarpum</i>	
マメ科		えだまめ	<i>Glycine max</i>	補助事業H28
マメ科		さやいんげん	<i>Phaseolus vulgaris</i>	補助事業H28
イネ科		スイートコーン	<i>Zea mays</i>	
マメ科		そらまめ	<i>Vicia faba</i>	
マメ科		うりずん(シカクマメ)	<i>Psophocarpum tetragonolobus</i>	
果実的野菜	バラ科	いちご	<i>Fragaria × ananassa</i>	補助事業H28
	ウリ科	すいか	<i>Citrullus lanatus</i>	補助事業H28
	ウリ科	メロン	<i>Cucumis melo</i>	
葉菜類	キク科	レタス	<i>Lactuca sativa</i>	補助事業H28
	セリ科	セルリー	<i>Apium graveolens var. dulce</i>	
	アブラナ科	カリフラワー	<i>Brassica oleracea var. botrytis</i>	
	アブラナ科	ブロッコリー	<i>Brassica oleracea var. italica</i>	
	キク科	サニーレタス	<i>Lactuca sativa var. crispa</i>	
	キク科	その他レタス	<i>Lactuca sativa</i>	
	キク科	サラダ菜	<i>Lactuca sativa</i>	
	セリ科	パセリ	<i>Petroselinum crispum</i>	
	ナス科	ばれいしょ	<i>Solanum tuberosum</i>	振興対策事業H27
	アサガオ科	かんしょ(紅いも)	<i>Ipomoea batatas</i>	
	サトイモ科	田いも	<i>Colocasia esculenta var. aquatilis</i>	
	ヤマノイモ科	やまいも	<i>Dioscorea japonica</i>	
	ヤマノイモ科	長いも	<i>Dioscorea batatas</i>	
	その他野	ウリ科	ゴーヤー	<i>Momordica charantia var. pavel</i>
アオイ科		オクラ	<i>Abelmoschus esculentus</i>	補助事業H28
ウリ科		へちま(ナーベラー)	<i>Luffa cylindrica</i>	補助事業H28
ウリ科		とうがん(シブイ)	<i>Benincasa hispida</i>	補助事業H28
サトイモ科		水いも	<i>Colocasia esculenta var. aquatilis</i>	

区分	科名	作物名	学名	備考
	ヒガンバナ科	わけぎ	<i>Allium fistulosum</i> var. <i>caespitosum</i>	
	ヒガンバナ科	にんにく	<i>Allium sativum</i>	
	ヒガンバナ科	らっきょう	<i>Allium chinense</i>	
	アサガオ科	えんさい	<i>Ipomoea aquatica</i>	
	ショウガ科	みょうが	<i>Zingiber mioga</i>	
	アブラナ科	ちんげんさい	<i>Brassica campestris</i>	
	アオイ科	モロヘイヤ	<i>Corchorus olitorius</i>	
	ショウガ科	しょうが	<i>Zingiber officinale</i>	
	パパイア科	野菜パパイア	<i>Carica papaya</i>	
	アブラナ科	水菜	<i>Brassica nipposinica</i> var. <i>laciniifolia</i>	
	アブラナ科	クレソン	<i>Rorippa nasturtium-aquaticum</i>	
	ナス科	とうがらし	<i>Capsicum annuum</i> cv. <i>Acuminatum</i>	
	イネ科	ハトムギ (ジュズダマ)	<i>Coix lacryma-jobi</i> var. <i>ma-yuen</i>	
	イネ科	マコモ	<i>Zizania latifolia</i>	
	サトイモ科	ズイキ (ムジ)	<i>Colocasia esculenta</i>	
	ショウガ科	ガジュツ (紫ウコン)	<i>Curcuma zedoaria</i>	
	キク科	エンダイブ (キクチャ)	<i>Cichorium endivia</i>	
	ツルムラサキ科	つるむらさき	<i>Basella alba</i> cv. <i>Rubra</i>	
	アサガオ科	ヤエヤマカズラ	<i>Ipomoea batatas</i>	
	マメ科	トウモロコシ	<i>Psium sativum</i>	
	セリ科	ボタンボウフウ (サクナ・長命草)	<i>Peucedanum japonica</i>	
	アサガオ科	かずら (カンダバー)	<i>Ipomoea batatas</i>	
	ユリ科	秋のワスレグサ (クワンソウ)	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>sempervirens</i>	
	セリ科	ういきょう (イーチョパー)	<i>Foeniculum vulgare</i>	
	アサガオ科	ようさい (ウンチエ)	<i>Ipomoea aquatica</i>	
	チャセンシダ科	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>	
	キク科	かきちしゃ (チシャナバー)	<i>Lactuca sativa</i> var. <i>asparagina</i>	
	ヒガンバナ科	のびる	<i>Allium grayi</i>	
	マメ科	じゅうろくささげ (フーロー豆)	<i>Vigna unguiculata</i> var. <i>sesquipedalis</i>	
	ヤマノイモ科	だいじょ (ヤマン)	<i>Dioscorea alata</i>	
	ヒユ科	フダンソウ (ンスナバー)	<i>Beta vulgaris</i> var. <i>cicla</i>	
	アブラナ科	葉だいこん	<i>Raphanus sativus</i> var. <i>hortensis</i>	
	ヒガンバナ科	葉ニンニク	<i>Allium sativum</i>	
	キク科	よもぎ (フーチバー)	<i>Artemisia princeps</i>	振興対策事業H27
	キク科	にがな (ほそぼわだん・ンジャー)	<i>Crepidiastrum lanceolatum</i>	振興対策事業H26
	キク科	水前寺菜 (ハンダマ)	<i>Gynura bicolor</i>	振興対策事業H26
	ウリ科	モーウイ	<i>Cucumis melo</i>	
	アブラナ科	かいわれ	<i>Raphanus sativus</i> var. <i>hortensis</i>	
		ベビーリーフ	-	振興対策事業H26
果実	パイナップル科	パイナップル	<i>Ananas comosus</i> var. <i>sativus</i>	振興対策事業H28
	ミカン科	かんきつ類	Rutaceae	振興対策事業H28
	ミカン科	みかん	Rutaceae	
	ミカン科	温州みかん	<i>Citrus unshiu</i>	
	ミカン科	天草みかん	Rutaceae	振興対策事業H26
	ミカン科	タンカン	<i>Citrus × tankan</i>	
	ミカン科	シクァーサー (シークワーサー・ヒラミレモン)	<i>Citrus depressa</i>	振興対策事業H28
	ブドウ科	ぶどう	<i>Vitis vinifera</i>	
	バラ科	すもも	<i>Prunus salicina</i>	
	バショウ科	バナナ	<i>Musa × sapientum</i>	振興対策事業H28
	パパイア科	パパイア	<i>Carica papaya</i>	
	ウルシ科	マンゴー	<i>Mangifera indica</i>	振興対策事業H28
	フトモモ科	グアバ (パンシロー)	<i>Psidium guajava</i>	
	バラ科	びわ	<i>Eriobotrya japonica</i>	
	バラ科	いちご	<i>Fragaria × ananassa</i>	
	サボテン科	ドラゴンフルーツ	<i>Hylocereus undatus</i>	振興対策事業H28
	トケイソウ科	パッションフルーツ	<i>Passiflora edulis</i>	振興対策事業H28
	ウリ科	すいか	<i>Citrullus lanatus</i>	
	カタバミ科	ゴレイシ (スターフルーツ)	<i>Averrhoa carambola</i>	振興対策事業H28
	ムクロジ科	レイシ	<i>Litchi chinensis</i>	振興対策事業H28

区分	科名	作物名	学名	備考
	キントラノオ科	アセローラ	<i>Malpighia emarginata</i>	
	バンレイシ科	アテモヤ	<i>Annona atemoya</i>	振興対策事業H26
	ミカン科	マーコット	<i>Rutaceae</i>	
	ウリ科	メロン	<i>Cucumis melo</i>	
	アカテツ科	カニステル	<i>Pouteria campechiana</i>	
	ミカン科	レモン	<i>Citrus limon</i>	
	ミカン科	オレンジ	<i>Citrus sinensis</i>	
	ミカン科	グレープフルーツ	<i>Citrus × paradisi</i>	
	ミカン科	いよかん	<i>Rutaceae</i>	
	ミカン科	きんかん	<i>Eriocactus schumannianus</i>	
	ミカン科	ライム	<i>Citrus aurantifolia</i>	
	ミカン科	オートー	<i>Citrus oto</i>	
	ミカン科	カープチャー	<i>Citrus keraji var. kabuchii</i>	
	フトモモ科	レンブ	<i>Syzygium samarangense</i>	振興対策事業H28
	クスノキ科	アボガド	<i>Persea americana</i>	
	マタタビ科	キーウィ	<i>Actinidia chinensis var. deliciosa</i>	
	バラ科	プラム	<i>Prunus salicina</i>	
	バラ科	もも	<i>Prunus persica</i>	
	ヤマモモ科	やまもも	<i>Myrica rubra</i>	
	ウリ科	ユウガオ (チブル)	<i>Lagenaria siceraria cv. Hispida</i>	
その他	イネ科	水稲	<i>Oryza sativa</i>	
	ナス科	葉たばこ	<i>Nicotiana tabacum</i>	
	ツバキ科	茶	<i>Camellia sinensis</i>	

参考文献

農作物として利用されていると考えられる植物名については以下より抜粋した。

- 1) 沖縄県農林水産部HP. 市場月報(最終閲覧日:2018年6月15日)  
<http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/oroshiuri/documents/geppou.html>
  - 2) 沖縄県農林水産部HP. 農業関係統計(平成27年3月版)(最終閲覧日:2018年6月15日)  
[http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/norinkikaku/kikaku/documents/kenkei\\_1.pdf](http://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/norinkikaku/kikaku/documents/kenkei_1.pdf)
  - 3) 上江洲 榮子・山口春奈・石川香織・玉城優子・崎浜美智子・内間ゆかり・山川房江.2004.沖縄県で入手可能な野菜の抗酸化力: エタノール抽出について.琉球大学教育学部紀要(67): 215-229.
- 植物種名(流通名)と学名の照合は主に以下に従った。
- 1) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七編著.2001.日本帰化植物写真図鑑.全国農村教育協会.pp365
  - 2) 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹.2010.日本帰化植物写真図鑑 第2巻.全国農村教育協会.pp249
  - 3) 初島彦彦, 天野鉄夫: 増補訂正 琉球植物目録, 沖縄生物学会,1994.

表 3.7 県内で利用されている農作物等の内「沖縄県対策外来種リスト」に掲載されている種

科名	草種名	学名	備考	区分
ツルムラサキ科	つるむらさき	<i>Basella alba cv. Rubra</i>		対策種
フトモモ科	グアバ (バンシロー)	<i>Psidium cattleianum</i>	キミノバンジロウ (ストロベリーグアバ)が該当	対策種
サボテン科	ドラゴンフルーツ	<i>Hylocereus undatus</i>	振興対策事業H28掲載種	対策種
キジカクシ科	アセローラ	<i>Malpighia emarginata</i>		対策種
マタタビ科	キーウィ	<i>Actinidia chinensis var. deliciosa</i>		予防種